

研究活動報告

Report on Research Activities

(2014年1月1日～2014年12月31日)

ここに収録された題目は、学内研究者の発表したもののうち、2014年1月1日より2014年12月31日迄の期間に学術雑誌等や学会等で発表したものを、論文の性質、発表機関などには一切制限を加えず、提供された原稿のまま掲載した。

- | | |
|----|-----------|
| 凡例 | ①著書： |
| | ②総説・原著論文： |
| | ③報告・資料： |
| | ④学会発表： |
| | ⑤雑誌・新聞等： |
| | ⑥その他研究活動： |

〔スポーツ科学科〕

スポーツ医科学コース

教授

河合 祥雄

①

- 1) Ashida T, Takato T, Matsuzaki G, Seko Y, Fujii J, Kawai S.: Basal cardiomyopathy develops in rabbits with ventricular tachyarrhythmias induced by a single injection of adrenaline. *International Heart Journal* 55(1): 78-83, 2014.
- 2) Kawai S, Shimada T.: Inflammation in Takotsubo Cardiomyopathy?: Inquiry from "Guidelines for Diagnosis and Treatment of Myocarditis (JCS 2009)". *J Cardiol.* 2014 Apr; 63(4): 247-9.
- 3) Someya Y, Kawa Si, Kohmura Y, Aoki K, Daida H.: Cardiorespiratory fitness and the incidence of type 2 diabetes: a cohort study of Japanese male athletes. *BMC Public Health* 2014, **14**: 4932014 May 23; 14: 493. doi: 10.1186/1471-2458-14-493. (impact factor 2.08)
- 4) 河合祥雄, 荒木 悠, 長谷川めぐみ, 里村隆気, 染谷由希, 関根紀子, 鈴木大地: 食品摂取により浮心を下方

に移動させた場合の「蹴伸び動作」パフォーマンスに与える影響. *水と健康医学研究会誌* 16(1): 1-7, 2014.

- 5) Suzuki Y, Maruyama-Nagao A, Sakuraba K, Kawai S.: Milk fortified with vitamin D could reduce the prevalence of vitamin D deficiency among Japanese female college students. *Arch Osteoporos.* 2014 Dec; 9(1): 188. doi: 10.1007/s11657-014-0188-x.

- 6) 中嶽 誠, 河合祥雄, 広沢正孝, ほか: 運動部に所属する大学生の栄養素摂取の実態. *調理食品と技術: 日本調理食品研究会誌.* 20(3): 105-111, 2014.

③

- 1) 河合祥雄, 太田 涼, 根岸隆介, 乙丸知子, 植村愛: 体育系大学生の飲酒意識調査: 完全禁酒学生寮入寮半年後の飲酒行動の変容. *順天堂スポーツ健康科学研究* 6(1) (通算66号): 45-47, 2014.

④

- 1) ジョイントシンポジウム 河合祥雄: Takotsubo Cardiomyopathy —New Questions for 2014. Stress-induced? and Inflammation?. 第78回日本循環器学会学術集会, 東京フォーラム座長 川嶋誠乃亮. 平成26年3月23日
- 2) 河合祥雄, 木村健大, 染谷由希: 24時間心電血圧記録器を用いた水中歩行における水中血圧動態. 第17回水と健康医学研究会, 東京, 如水会館, 座長渡部厚一. 平成26年6月14日.

- 3) 北田友治, 村田亮馬, 河合祥雄, 佐久間和彦, 中村

明, 町田修一, 内藤久士: 最大下および最大走運動中の呼吸筋における酸素動態. 第69回日本体力医学会, 座長: 内藤久士. 平成26年9月20日.

⑤
資料

- 1) 河合祥雄, 太田 涼, 根岸隆介, 乙丸知子, 植村愛: 順天堂大学さくらキャンパス1年生の飲酒意識2013年調査. 順天堂スポーツ健康科学研究 6(1)(通算66号): 45-47, 2014.

⑥
その他(教育講演)

- 1) 河合祥雄: 陸上, 水中運動における急性循環器系障害. 第10回三島市医師会健康スポーツ医学部会講演会, 座長: 吉富雄治, みしまプラザホテル. 平成26年1月17日(金) 19:00
- 2) 河合祥雄: ロコモの時代を生きる. 主催 栃木県医師会 健康スポーツ医学再研修会 護国会館(宇都宮市), 座長小沼一郎. 平成26年1月26日
- 3) 河合祥雄: ダイビング安全講習会2014 第1回東京会場「健康管理と事故防止策と中高齢者ダイバーの増加」. 平成26年度(公財)日本体育協会公認スクーバ・ダイビング指導員更新研修会, 財団法人 社会スポーツセンター, 財団法人日本対体育協会主催, 日本海洋レジャー安全・振興協会, DAN JAPAN 共催, 東京医科歯科大学, 歯学部特別講堂. 平成26年4月5日.
- 4) 河合祥雄: ダイビング安全講習会2014 第2回大阪会場「健康管理と事故防止策と中高齢者ダイバーの増加」. 平成26年度(公財)日本体育協会公認スクーバ・ダイビング指導員更新研修会, 財団法人 社会スポーツセンター, 財団法人日本対体育協会主催, 日本海洋レジャー安全・振興協会, DAN JAPAN 共催, 新大阪丸ビル609号室. 26年4月12日(土)

櫻庭 景植

- ①
前澤克彦, 桜庭景植: III-2 ランニング量からみた障害発生. ランニング障害のリハビリテーションとリコンディショニング, 増田雄一 編集, 文光堂: 52-56, 2014

櫻庭景植; スポーツ障害の診かた・治し方. スポーツ現場での救急対応—整形外科系.
日本医師会雑誌 143(2): 319-323, 2014

櫻庭景植; スポーツ障害・外傷とリハビリテーション. 分担執筆;
猪飼哲夫・渡会公治編集, 医歯薬出版, 2014

②

【原著】

Masaaki Kaneko, Keishoku Sakuraba. Association between femoral anteversion and lower extremity posture upon single-leg landing: implications for anterior cruciate ligament injury. *Journal of Physical Therapy Science*. 25(10): 1213-17. 2013
Journal of Physical Therapy Science 2013 Excellent Paper Award

Takayuki, Hashimoto, Keishoku, Sakuraba:
Strength Training for the Intrinsic Flexor Muscles of the Foot—Effects on Muscle Strength, the Foot Arch, and Dynamic Parameters before and after the training.
J. Phys. Ther. Sci. 26: 373-376, 2014

Takayuki, Hashimoto, Keishoku, Sakuraba:
Assessment of effective ankle joint positioning in strength training for intrinsic foot flexor muscles: A comparison of intrinsic foot flexor muscle activity in a position intermediate to plantar and dorsiflexion with that in maximum plantar flexion using needle electromyography.
J. Phys. Ther. Sci. 26: 451-454, 2014

Tsuchiya Y, Sakuraba K, Ochi E.
High force eccentric exercise enhances serum tartrate-resistant acid phosphatase-5b and osteocalcin.
J Musculoskelet Neuronal Interact. 14(1): 55-57, 2014

Tsuchiya Y, Sakuraba K, Ochi E. Effect of eccentric contractions of elbow flexor on bone formation and resorption markers. *J Sports Med Phys Fitness.* 54(5): 651-657, 2014

Kazuhiko Omori, Youichi Yanagawa, Hiromichi Osaka, Akihiko Kondo, Yasumasa Oode, Ken Okamoto, Atsuyuki Kubota*, Keishoku Sakuraba, Akio Kanda, Akira Itoi, Osamu Oobayashi:

Analysis of patients with bodyboarding injuries transported by physician-staffed emergency helicopter, *Journal of Trauma*, 2014

Kimoto-Nira H, Nagakura Y, Kodama C, Shimizu T, Okuda M, Sasaki K, Koikawa N, Sakuraba K, Suzuki C, Suzuki Y.: Effects of ingesting fermented milk by using *Lactococcus lactis* H61 on skin health in young women: A randomized double-blind study. *J Dairy Sci* 97(9): 5898-5903, 2014

Suzuki Y, Maruyama-Nagao A, Sakuraba K, Kawai S.: Milk fortified with vitamin D could reduce the prevalence of vitamin D deficiency among Japanese female college students. *Arch Osteoporos.* 9(1): 188, 2014 doi: 10.1007/s11657-014-0188-x

Suzuki Y, Shimizu T, Ota M, Hirata R, Sato K, Tamura Y, Imanishi A, Watanabe M, Sakuraba K.: Different training status could alter the continuous blood glucose kinetics in self-paced endurance running. *Exp Ther Med.* Accepted

橋本貴幸, 櫻庭景植 ;
足部内在屈筋筋力トレーニングに効果的な足関節肢位の検証～針筋電図検査を用いた足部内在屈筋筋活動を中心に～整形リハ会誌, v15; 56-59, 2014.

佐藤照友旭, 櫻庭景植, 土屋陽祐, 丸山伸也, 越智英輔.
男子アルペンスキー選手における身体組成及び骨代謝・骨密度のシーズン変化についての縦断的研究.
日本スキー学会 スキー研究. 11(1): 67-72, 2014

富永修一, 櫻庭景植.
中高年下腿切断者の身体活動量に関連する因子の検討.
PO アカデミージャーナル. 22(2): 141-6, 2014

中嶽 誠, 河合祥雄, 広沢正孝, 櫻庭景植, 小熊英伸, 島内憲夫, 鈴木美奈子, 田辺 正, 鈴木大地, 吉村雅文, 青葉幸洋, 山田 満, 佐久間和彦, 越川一紀, 仲村 明, 青木和浩, 山崎一彦, 鯉川なつえ, 高梨雄太, 長門俊介, 平尾智美, 加納 實, 原田睦巳, 冨田洋之, 濱野光之, 菅波盛雄, 廣瀬伸良, 中村 充, 砂見綾香, 佐々木和登, 川野因, 鈴木良雄, JNASグループ :

運動部に所属する大学生の栄養素摂取の実態.
調理食品と技術: 日本調理食品研究会誌. 20(3): 105-111, 2014

【総説】

橋本貴幸, 櫻庭景植 :
足部内在筋エクササイズ.
臨床スポーツ医学. 臨時増刊号. スポーツ障害理学療法ガイド 31: 324-328, 2014

③

櫻庭景植 ; ロンドンオリンピック帯同報告およびコンディショニングチェック
～陸上競技チームドクター報告および陸上医事委員会の試み～
陸上競技研究紀要 Bulletin of Studies in Athletics of JAAF, Vol. 10, 71-86, 2014

④

【国際発表】

Wakamatsu K, Sakuraba K, Fujita S, Sanomura M, Mukai-moto T, Kubota A.:
Bone Metabolism Markers In Collegiate Female Track-and-field Athletes.
American College of Sports Medicine 61st annual meeting. 2014.5.28. Orland

Ryo Konno, Haruka Kadoya, Keishoku Sakuraba, Kazuhito Yokoyama;
Preliminary Research of Factors Contributing Regular Physical Exercise of College Students
Asia South Pacific Association of Sports Psychology 7th International Congress, 2014.8.7. Tokyo

Maruyama-Nagao A, Sakuraba K, Suzuki Y:
Seasonal and practice environment effects on vitamin D and intact parathyroid hormone levels among female athletes in Japan.
Be Active 2014.10.17. Canberra, AU

Tsuchiya Y, Sakuraba K, Sato T, Ochi E.
High force eccentric exercise enhances serum tartrate-resistant acid phosphatase-5b and osteocalcin.
International Osteoporosis Foundation- 5th Asia-Pacific Os-

teoporosis Meeting. 2014.11. Taipei

Sato T, Sakuraba K, Tsuchiya Y, Ochi E. Seasonal variation of bone metabolism and bone mineral density in male alpine skiers. International Osteoporosis Foundation- 5th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting. 2014.11. Taipei

【国内発表】

近藤彰彦, 柳川洋一, 大森一彦, 大坂裕通, 大出靖将, 杉田 学, 窪田敦之, 桜庭景植, 神田彰男, 糸井 陽, 大林治 :

body board injury の特徴についての検討.

第64回日本救急医学会関東地方会. 2014.2. 神奈川

鈴木良雄, 長尾 (丸山) 麻子, 伊藤美穂, 桜庭景植, 河合祥雄

女子大学生のビタミンD 栄養状態とビタミンD 強化牛乳摂取による改善.

第160回体力医学会関東支地方会. 2014.3.8. 東京

大森一彦, 柳川洋一, 大坂裕通, 近藤彰彦, 大出靖将, 岡本 健, 窪田敦之, 桜庭景植, 神田彰男, 糸井 陽, 大林治 :

過去5年間のドクターヘリで搬送した body board injury の臨床的特徴.

第28回日本外傷学総会・学術集会. 2014.6. 東京

福土徳文, 桜庭景植, 吉村雅文, 窪田敦之, 青葉幸洋, 藤田真平 :

ターン動作における足底圧と下肢筋力の関係: 第5中足骨疲労骨折との関連を中心に. 日本体育学会第65回大会. 2014.8. 岩手

窪田敦之, 桜庭景植, 藤田真平, 大久保岳水 :

疲労回復またはパフォーマンス低下軽減に対するコンプレッションウェアの有用性.

第69回日本体力医学会大会. 2014.9. 長崎

門屋悠香, 鹿倉二郎, 桜庭景植 :

足関節捻挫経験がしゃがみこみ動作に及ぼす影響.

第69回日本体力医学会大会. 2014.9. 長崎

柳沼志帆, 門屋悠香, 桜庭景植, 鈴木良雄 :

小学校低学年児童の運動習慣と生活習慣の関連.

第69回日本体力医学会大会. 2014.9. 19~21, 長崎

金子雅明, 桜庭景植, 鹿倉二郎, 岡崎倫江, 筒井稔久, 北川和彦, 青木涼平, 下本理沙

片脚着地動作時の矢状面上における下肢関節動態と大腿骨前捻角との関係.

第40回日本整形外科スポーツ医学会学術集会. 2014.9. 東京

富永修一, 桜庭景植

競技力の高い下腿切断者スプリンターにおける走行用義足のアライメント変化が地面反力に与える影響.

スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス. 2014.10. 新潟

大森一彦, 小日向麻里子, 大坂裕通, 三島健太郎, 石川浩平, 大出靖将, 窪田敦之, 桜庭景植, 柳川洋一 :

過去5年間のドクターヘリで搬送した body board injury とマリンスポーツ以外の脊髄損傷との比較検討.

第42回日本救急医学会総会・学術集会. 2014.10. 福岡

石川朝登, 桜庭景植, 窪田敦之 :

大学男子長距離選手の足部外転とランニング障害の関係.

第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会. 2014.11. 東京

鈴木 恒, 桜庭景植, 窪田敦之 :

成長期サッカー選手の大腿前面に対するストレッチ手技の違いによる柔軟性改善効果の比較.

第25回日本臨床スポーツ医学会. 2014.11. 東京

遠藤慎也, 桜庭景植, 窪田敦之 :

異なる収縮様式での筋力トレーニングおよび脱トレーニングが筋力および筋横断面積に及ぼす影響.

第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会. 2014.11. 東京

蒲田浩史, 山澤文裕, 鳥居 俊, 向井直樹, 桜庭景植, 前澤克彦, 高橋敏明, 横江清司, 菅原 誠, 馬場礼三 ;

全国高等学校総合体育大会・陸上競技出場選手における障害調査.

第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会. 2014.11. 東京

大森由紀, 横山和仁, 松川岳久, 角田弘子, 宮田美恵子, 鈴木良雄, 桜庭景植, 門屋遥香, 柳沼志帆, 鯉淵絵里 ;

幼児の毛髪中有害元素濃度とBDHQ から推定された食事

摂取量との関係.

第84回日本衛生学会学術総会. 2014年5月25日～27日 岡山

⑥

【査読】

JOSKAS (Journal Orthopaedic Society of Knee and Arthroscopy and Sports Medicine)

Journal of Physical Therapy Science

日本臨床スポーツ医学会

日本整形外科スポーツ医学会

【講演】

桜庭景植；スポーツ現場での救急処置～外科系～，日本体育協会公認スポーツドクター講習会，東京，1月12日，2014

桜庭景植；スポーツ外傷・障害の基礎知識；下肢・下腿，日本体育協会公認アスレチックトレーナー養成講習会 1月27日 東京，2014

桜庭景植；地域・職場で役に立つ運動療法の実際，東京都医師会・すみだ医師会産業医研修会，2月2日，東京，2014

桜庭景植；外科的傷害上肢
健康運動指導士養成教習会 2月11日，東京，2014

桜庭景植；外科的傷害下肢
健康運動指導士養成教習会 2月11日，東京，2014

桜庭景植；スポーツ外傷・障害の最新情報—下腿・足関節，日本体育協会公認スポーツドクター講習会，東京，2月16日，2014

桜庭景植；スポーツ現場・職域における救急対応の実際～外科系～，
東京都医師会「健康スポーツ医研修会」，東京，5月10日，2014

桜庭景植；疲労骨折，早期発見を中心に～箱根駅伝，ロンドンオリンピックを含めて～
第287回木曾医師会臨床懇話会，2014.6.17. 長野

桜庭景植；スポーツ指導者に必要な医学的知識；スポーツ外傷・障害（外科系）.
公認スポーツ指導者講習会，東京，2014/8/20

桜庭景植；脊柱の仕組みと外傷・障害～スポーツ傷害を中心に～
西川産業スリープマスター実践講座.
東京，2014/9/16

桜庭景植；スポーツ現場での救急処置（整形外科系）
日本医師会健康スポーツ医学講習会，2014/11/23

【そのほか】

桜庭景植；M-SPIRIT No 80 counseling & advice 骨をきたえよう！，The Marubeni Group Magazine, p43-44, 2014.

桜庭景植；60歳からのマラソン，週間朝日 3.21. 増大号，p48-51, 2014.

桜庭景植；NHK 報道，クローズアップ現代「無月経と疲労骨折」2014年4月15日

桜庭景植；NHK 報道，おはよう日本「無月経と疲労骨折」2014年4月16日

【研究助成金】

科研費；代表 桜庭景植 ほか；
基盤研究C 課題番号 25350899
血流制限による骨格筋萎縮の抑制効果とそれに関連する遺伝子の解明。
25年度195万，26年度143万，27年度156万

科研費；共同；代表 中新井田敦子；
基盤研究C 課題番号 25350900
デイサービスでできる運動プログラム；虚弱高齢者のQOLを改善。
25年度312万，26年度78万，27年度65万

鈴木良雄，桜庭景植ら，；ビタミンD強化牛乳がVD栄養状態に与える効果の検討，研究委託金；150万円，牛乳乳製品健康科学学術研究助成，

文科省科学研究費；共同研究；筧 佐織，桜庭景植，田村好史；

不活動による筋インスリン抵抗性惹起の分子メカニズムの
解明と予防法の開発

科研費 算 (4,996,000円 ; 2,196,000, 1,400,000,
1,400,000円) (24,25,26年度)

文科省科学研究費 ; 共同研究 ; 丸山麻子, 桜庭景植 ;
季節変化に伴う血中ビタミンDと骨強度および体力との
関連

科研費 H24 ; 250万, H25 ; 60万, H26 ; 40万 の計350
万

受託研究 ; 熱中症対策キットの基礎および臨床研究.

桜庭景植, 丸山麻子, シンネットワーク

100万円

受託研究 ; ヨネックス新製品・新素材開発に関する基礎研
究.

桜庭景植 ; ヨネックス株式会社, 100万円

【社会活動など】

ヨネックススポーツ振興財団評議員 (2001年より現在に至
る)

鹿倉 二郎

④

1) 金子雅明, 桜庭景植, 鹿倉二郎, 岡崎倫江, 筒井稔
久, 北川和彦, 青木涼平, 下本理沙 : 片脚着地時の矢状
面上における下肢関節動態と大腿骨前捻角との関連性
(会議録). 第40回整形外科スポーツ医学会学術集会, 9
月, 2014, 東京

2) Izumi, H., Shikakura, J., Tsuruike, M., Nakamura, Y.:
Comparison of Frequency of Practices Implemented by the
Athletic Training Professionals Across Four Countries.
World Federation of Athletic Training & Therapy World
Congress, 2014.9. Dublin, Ireland.

3) 門屋悠香, 鹿倉二郎, 桜庭景植 : 足関節捻挫経験がし
ゃがみこみ動作に及ぼす影響. 第69回日本体力医学会大
会. 9月, 2014, 長崎

⑥

1) 公益財団法人 日本体育協会公認アスレティックト

レーナー養成講習会 (第1期および第4期) 講師

2) 公益財団法人 日本体育協会公認スポーツ指導者養成
講習会 講師

内藤 久士

①

1. 内藤久士, 町田修一, 吉原利典 ; Section 5 運動と筋
—4 骨格筋の肥大と萎縮, 分担執筆 ; ニュー運動生理学
(I). p224-33, 宮村実晴編, 真興交易株式会社医書出
版部, 東京, 2014.

②

1. Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Kakigi R, Sugiura T,
Powers SK, Naito H. Heat stress protects against mechani-
cal ventilation-induced diaphragmatic atrophy. *J Appl
Physiol.* 117(5): 518-24, 2014.

2. Ichinoseki-Sekine N, Kakigi R, Miura S, Naito H. Whey
peptide ingestion suppresses body fat accumulation in
senescence-accelerated mouse prone 6 (SAMP6). *Eur J
Nutr.* 2014. [Epub ahead of print]

3. Kakigi R, Yoshihara T, Ozaki H, Ogura Y, Ichinoseki-
Sekine N, Kobayashi H, Naito H. Whey protein intake af-
ter resistance exercise activates mTOR signaling in a dose-
dependent manner in human skeletal muscle. *European
Journal of Applied Physiology.* 114(4): 735-42, 2014

4. Kawaguchi M, Tamura Y, Kakehi S, Takeno K, Sakurai
Y, Watanabe T, Funayama T, Sato F, Ikeda S, Ogura Y,
Saga N, Naito H, Fujitani Y, Kanazawa A, Kawamori R,
Watada H. Association between expression of FABPpm in
skeletal muscle and insulin sensitivity in intramyocellular
lipid-accumulated nonobese men. *J Clin Endocrinol Metab.*
99(9): 3343-52. 2014.

5. Ozaki H, Kakigi R, Kobayashi H, Loenneke JP, Abe T,
Naito H. Effects of walking combined with restricted leg
blood flow on mTOR and MAPK signalling in young men.
Acta Physiologica. 211(1): 97-106, 2014

6. Sawada SS, Lee IM, Naito H, Kakigi R, Goto S,

Kanazawa M, Okamoto T, Tsukamoto K, Muto T, Tanaka H, Blair SN. Cardiorespiratory fitness, body mass index, and cancer mortality: a cohort study of Japanese men. *BMC Public Health*. 2014. 14: 1012. doi: 10.1186/1471-2458-14-1012.

7. Sakamoto A, Naito H, Chow CM. Hyperventilation as a strategy for improved repeated sprint performance. *J Strength Cond Res*. 28(4): 1119-26 (2014).

③

1. 平成25年度 体力・運動能力調査報告書 (内藤久土, 廣津信義, 関根紀子他). 文部科学省 (2014)
2. 平成26年度 全国体力・運動能力, 運動習慣等調査結果報告書 (平成26年度全国体力・運動能力, 運動習慣等調査検討委員会 浅見俊雄, 内藤久土他). 文部科学省 (2014)

④

[国際(海外)学会発表]

1. Yoshihara T, Kakigi R, Tsuzuki T, Takamine Y, Ichinoseki-Sekine N, Naito H. Changes in HDAC expressions in response to acute heat stress in rat skeletal muscle. 13th Biennial Advances in Skeletal Muscle Biology in Health & Disease Conference, Gainesville, Florida, USA, 2014年3月
2. Takamine Y, Tsuzuki T, Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Naito H. The effects of voluntary running during the growing period on bone tissue in Type 2 diabetic rats. 13th Biennial Advances in Skeletal Muscle Biology in Health & Disease Conference, Gainesville, Florida, USA, 2014年3月
3. Tsuzuki T, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Kobayashi H, Machida S, Naito H. Changes in stress protein expression in skeletal muscle before the onset of metabolic abnormalities in type 2 diabetic rats. The 21th International Congress on Sport Science for Students, Budapest, 2014年4月
4. Ichinoseki-Sekine N, Takamine Y, Tsuzuki T, Yoshihara T, Naito H. Temporary Termination During Long-term

Voluntary Exercise Increases Exercise Volume After Exercise Resumed In Mice. The American College of Sports Medicine 61th Annual Meeting, Florida, USA, 2014年5月. *Med Sci Sports Exerc*. 46: 5 supplement, 356, 2014.

5. Nakagata T, Naito H, Katamoto S. The Effect Of Transdermal Nicotine Patch On Energy Expenditure. The American College of Sports Medicine 61th Annual Meeting, Florida, USA, 2014年5月. *Med Sci Sports Exerc*. 46: 5 supplement, 496, 2014.
6. Yoshihara T, Kurosaka M, Kakigi R, Takamine Y, Machida S, Sugiura T, Naito H. Alterations in HDACs expressions in response to endurance training in rat plantaris muscle. The American College of Sports Medicine 61th Annual Meeting, Florida, USA, 2014年5月. *Med Sci Sports Exerc*. 46: 5 supplement, 308-9, 2014.
7. Sakamoto A, Naito H, Chow CM. Effects of short vs. long hyperventilation on repeated sprint performance and muscle activation. 2014 Australian Conference of Science and Medicine in Sport (ACSMS), Canberra, Australia, 2014年10月
8. 張碩文, 内藤久土. 在日台灣學校的中學生體適能. 2014年體育運動學術團體聯合年會暨學術研討會(台灣), 2014年12月.
→日本語訳: 張碩文, 内藤久土. 在日台湾中華學校中學生の体力に関する研究. 2014体育運動學術団体連合年會・学会(台灣), 2014年12月.

[国内学会発表]

1. 柿木 亮, 内藤久土, 吉原利典, 岡田隆夫. 熱ストレスがラット骨格筋 mTOR シグナルと HSP 発現に及ぼす影響. 第91回 日本生理学会大会, 鹿児島, 2014年3月
2. 都築孝允, 町田修一, 内藤久土. 2型糖尿病の予防に対する運動の効果~OLETF ラットを用いた検討~. 第160回日本体力医学会関東地方会, 東京, 2014年3月. *体力科学* 63(3): 365; (2014)
3. 尾崎隼朗, 内藤久土. コンバインドサーキットトレーニングが中高齢女性の筋サイズとピーク酸素摂取量に及

- ぼす影響. 第22回日本運動生理学会大会, 岡山, 2014年7月
4. 芝口 翼, 杉浦崇夫, 吉原利典, 内藤久土, 後藤勝正, 太平充宣, 吉岡利忠. 筋損傷後の異なる温度刺激が筋再生過程における筋線維組成の変化に及ぼす影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 566; (2014)
 5. 吉原利典, 町田修一, 黒坂裕香, 柿木 亮, 関根紀子, 杉浦崇夫, 内藤久土. ギプス固定による筋萎縮がラット腓腹筋におけるヒストン修飾およびHDAC発現量の変化に及ぼす影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 553; (2014)
 6. 張碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久土. 再接地を行うタイミングの違いが萎縮時の細胞内シグナル伝達に及ぼす影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 554; (2014)
 7. 坂本彰宏, 内藤久土. 繰り返し最大運動のパフォーマンスに有効となるハイパーベンチレーション実施時間の解明. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 648; (2014)
 8. 亀岡 舞, 内藤久土, 町田修一. 月経周期がレジスタンス運動後の筋タンパク質分解に関連する尿中マーカーに及ぼす影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 649; (2014)
 9. 北田友治, 村田亮馬, 河合祥雄, 佐久間和彦, 仲村明, 町田修一, 内藤久土. 最大下および最大走運動中の呼吸筋における酸素動態. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 581; (2014)
 10. 村田亮馬, 北田友治, 町田修一, 内藤久土. 外側広筋の酸素化レベルと長距離走のパフォーマンスとの関連性. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 581; (2014)
 11. トウホウウ, 周亮福, 伍文権, 町田修一, 内藤久土. 中国中規模都市における青少年の生活習慣と肥満との関連性. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 669; (2014)
 12. 宇田宗弘, 川崎広明, 飯泉恭一, 重永綾子, 馬場猛, 内藤久土, 山倉文幸. 骨格筋 α -アクチニンの新規翻訳修飾. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 558; (2014)
 13. 杉浦崇夫, 芝口 翼, 吉原利典, 内藤久土, 後藤勝正, 吉岡利忠. 筋損傷後の回復過程におけるミオシン重鎖分子種に及ぼす異なる温度刺激の影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 566; (2014)
 14. 柿木亮, 内藤久土, 吉原利典, 坂本彰宏, 中村智洋, 小林裕幸, 岡田隆夫. 伸張性収縮運動によるヒト骨格筋 mTOR シグナルの増加は鍛錬度によって異なる. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 567; (2014)
 15. 関根紀子, 都築孝允, 吉原利典, 高嶺由梨, 小林裕幸, 内藤久土. 2型糖尿病発症に伴うラット横隔膜筋張力の変化. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 571; (2014)
 16. 高嶺由梨, 関根紀子, 吉原利典, 都築孝允, 内藤久土. マウスにおける運動開始時期の違いが骨強度に与える影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 573; (2014)
 17. 都築孝允, 篠崎昇平, 中本英子, 小林裕幸, 後藤佐多良, 金木正夫, 内藤久土. 定期的な運動は2型糖尿病ラットの肝臓 S-ニトロソ化 Akt を軽減する. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 603; (2014)
 18. 石原美彦, 吉村雅文, 町田修一, 内藤久土. 暑熱環境下におけるサッカー競技中のレフェリーの脱水状態. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 643; (2014)
 19. 亀岡 舞, 内藤久土, 町田修一. 月経周期がレジスタンス運動後の筋タンパク質分解に関連する尿中マーカーに及ぼす影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 649; (2014)
 20. 尾崎隼朗, 北田友治, 町田修一, 内藤久土. ランニ

ング及びサイクリングが大腿四頭筋の筋厚と筋酸素動態に与える影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 652; (2014)

21. 棗 寿喜, 尾崎隼朗, 町田修一, 内藤久士. 受動的な関節動作と血流制限を組み合わせたトレーニングが筋肥大および筋力に及ぼす影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 654; (2014)
22. 芝口 翼, 杉浦崇夫, 後藤勝正, 吉原利典, 内藤久士, 大平充宣, 吉岡利忠. 筋損傷後の異なる温度刺激がラットヒラメ筋再生過程に及ぼす影響. 第22回日本運動生理学会, 岡山, 2014年7月.
23. 都築孝允, 中本英子, 小林裕幸, 後藤佐多良, 内藤久士. Elevated oxidative stress in OLETF (type 2 diabetes model) rat liver. 第37回日本基礎老化学会, 愛知, 2014年6月
24. 尾崎隼朗, 棗寿喜, 渡辺圭佑, 町田修一, 内藤久士. 大腿四頭筋への低強度での電気刺激と血流制限の組み合わせが筋肥大及び筋力増加に及ぼす影響. 第27回日本トレーニング科学会大会, 東京, 2014年11月

⑥

〔科学研究費〕

1. 「改良型機械的人工換気システムを用いた横隔膜の筋萎縮回復メカニズムの解明」, 基盤研究 (C), (研究分担者, 研究課題番号: 26350820), 2014年4月1日～2017年3月31日
2. 「エビジェネティクスで解明する宇宙環境におけるマッスルメモリー」, 基盤研究 (C), (研究分担者, 研究課題番号: 26506021), 2014年4月1日～2017年3月31日

前任准教授

鈴木 良雄

①

1. 鈴木良雄 (分担執筆). スポーツ・運動栄養学 第3版 (栄養科学シリーズ NEXT シリーズ) 加藤秀夫, 中坊幸弘, 中村亜紀編集. 講談社サイエンティフィック (東京), 1章・3章, 2015.

②

1. Kimoto-Nira H, Nagakura Y, Kodama C, Shimizu T,

Okuda M, Sasaki K, Koikawa N, Sakuraba K, Suzuki C, Suzuki Y. Effects of ingesting fermented milk by using *Lactococcus lactis* H61 on skin health in young women: A randomized double-blind study. *J Dairy Sci* 97(9): 5898-5903, 2014

2. Suzuki Y, Maruyama-Nagao A, Sakuraba K, Kawai S. Milk fortified with vitamin D could reduce the prevalence of vitamin D deficiency among Japanese female college students. *Arch Osteoporosis* 9(1): 188, 2014
3. Yaginuma S, Sakuraba K, Kadoya H, Koibuchi E, Matsuoka T, Ito H, Yokoyama K, Suzuki Y. Early bedtime associated with the salutary breakfast intake in Japanese nursery school children. *Int Med J* 22(1): 30-32, 2015
4. Suzuki Y, Shimizu T, Ota M, Hirata R, Sato K, Tamura Y, Imanishi A, Watanabe M, Sakuraba K. Different training status could alter the continuous blood glucose kinetics in self-paced endurance running. *Exp Ther Med*. Accepted
5. 中嶽 誠, 河合祥雄, 広沢正孝, 櫻庭景植, 小熊英伸, 島内憲夫, 鈴木美奈子, 田辺 正, 鈴木大地, 吉村雅文, 青葉幸洋, 山田 満, 佐久間和彦, 越川一紀, 仲村 明, 青木和浩, 山崎一彦, 鯉川なつえ, 高梨雄太, 長門俊介, 平尾智美, 加納 實, 原田陸巳, 富田洋之, 濱野光之, 菅波盛雄, 廣瀬伸良, 中村 充, 砂見綾香, 佐々木和登, 川野 因, 鈴木良雄, JNASグループ. 運動部に所属する大学生の栄養素摂取の実態. 調理食品と技術: 日本調理食品研究会誌 20(3): 105-111, 2014.

③

1. 分担研究者: 木戸康博. 研究協力者: 志塚ふじ子, 鈴木良雄, 小川亜紀, 鈴木いづみ. 日本人の食事摂取基準の策定に資する基礎資料—たんぱく質—. 厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業 報告書 日本人の食事摂取基準の策定に資する代謝疾患の栄養評価に関する研究 平成25年度 総括・分担研究報告書 p. 541-560, 2014

④

1. 鈴木良雄, 丸山麻子, 伊藤美穂, 櫻庭景植, 河合祥雄. 女子大学生のビタミンD栄養状態と強化牛乳摂取による改善. 第160回日本体力医学会関東地方会. 2014

- 年3月8日(東京)東京慈恵会医科大学 国領キャンパス
2. 砂見綾香, 佐々木和登, 小熊伸英, 鈴木良雄, 石原淳子, 中井あゆみ, 安田 純, 横山友里, 吉崎貴大, 多田由紀, 日田安寿美, 川野 因, 順天堂大学運動部栄養調査(JNAS)グループ. 大学生アスリートを対象とした半定量食物摂取頻度調査票の妥当性検討. 第160回日本体力医学会関東地方会. 2014年3月8日(東京)東京慈恵会医科大学 国領キャンパス
 3. 小熊伸英, 砂見綾香, 佐々木和登, 中井あゆみ, 安田純, 横山友里, 吉崎貴大, 多田由紀, 日田安寿美, 鈴木良雄, 川野 因, 順天堂大学運動部栄養調査(JNAS)グループ. 運動部に所属する大学生の食生活について. 第160回日本体力医学会関東地方会. (東京)東京慈恵会医科大学 国領キャンパス
 4. 大森由紀, 横山和仁, 松川岳久, 角田弘子, 宮田美恵子, 鈴木良雄, 桜庭景植, 門屋悠香, 柳沼志帆, 鯉淵絵理. 幼児の毛髪中有害元素濃度とBDHQから推定された食事摂取量との関係. 第84回日本衛生学会学術総会. 2014年5月25日(日)~5月27日(火)(岡山)岡山コンベンションセンター
 5. 砂見綾香, 佐々木和登, 安田純, 鈴木良雄, 吉崎貴大, 横山友里, 中井あゆみ, 日田安寿美, 多田由紀, 川野因. 大学生アスリートの生活習慣および10食品群の摂取頻度に関する実態調査. 第61回日本栄養改善学会学術総会. 2014年8月20日(水)~22日(金)(横浜)パシフィコ横浜
 6. 佐々木和登, 砂見綾香, 石原淳子, 鈴木良雄, 吉崎貴大, 横山友里, 中井あゆみ, 安田 純, 日田安寿美, 多田由紀, 川野 因, 順天堂大学運動部栄養調査(JNAS)グループ. 大学生アスリートを対象とした半定量食物摂取頻度調査票の検討. 第61回日本栄養改善学会学術総会. 2014年8月20日(水)~22日(金)(横浜)パシフィコ横浜
 7. 安田 純, 砂見綾香, 佐々木和登, 吉崎貴大, 横山友里, 中井あゆみ, 多田由紀, 日田安寿美, 鈴木良雄, 川野 因. 体育系部活動に所属する大学生の朝食欠食に関する実態把握. 第61回日本栄養改善学会学術総会. 2014年8月20日(水)~22日(金)(横浜)パシフィコ横浜
 8. 柳沼志帆, 門屋悠香, 桜庭景植, 鈴木良雄. 小学校低学年児童の運動習慣と生活習慣の関連. 第69回日本体力医学会. 2014年9月19日(金)~9月21日(日)O-13-1E-20(長崎)長崎大学文教キャンパス
 9. 鈴木いづみ, 島村芳崇, 大塚慶輔, 鈴木宏哉, 鈴木良雄. プロサッカー選手の身体特性と試合中の移動特性に関する研究. 第69回日本体力医学会. 2014年9月19日(金)~9月21日(日)P-2-P86(長崎)長崎大学文教キャンパス
 10. Maruyama-Nagao A, Sakuraba K, Suzuki Y. Seasonal and practice environment effects on vitamin D and intact parathyroid hormone levels among female athletes in Japan. Annual Meeting of the Australian Conference of Science and Medicine in Sport. 2014年10月15日~18日(Canberra, Australia) the National Convention Centre
 11. 佐々木和登, 砂見綾香, 鈴木良雄, 吉崎貴大, 横山友里, 中井あゆみ, 安田 純, 日田安寿美, 多田由紀, 川野 因, 順天堂大学運動部栄養調査(JNAS)グループ. 運動部に所属する男子大学生の栄養素摂取状況に関する研究. 日本栄養改善学会 関東・甲信越支部 第2回学術総会. 2015年2月28日(東京)(独)国立健康・栄養研究所 共用第一会議室
- ⑥
1. 鈴木良雄. スポーツと栄養. 平成26年度 千葉県社会体育公認指導員等養成講習会(千葉)2014年9月7日
 2. 鈴木良雄. スポーツと栄養. 文京ジュニア・アスリート・アカデミー公開講座(東京)2014年11月16日
 3. 鈴木良雄. 子どもの食生活を考える—偏食や肥満の予防と対策—. 文京区健康教育推進事業 講演会 文京区立柳町小学校(東京)2015年2月17日
 4. 鈴木良雄. 子どもの食生活を考える—偏食や肥満の予防と対策—. 文京区健康教育推進事業 講演会 文京区立関口台町小学校(東京)2015年2月17日
 5. 鈴木良雄. 競技力向上とスポーツ栄養について. 千葉

県松戸市立松戸高校 模擬授業 (千葉) 2015年3月24日

6. 学会誌等の査読

- Drug Design, Development and Therapy 1本

7. 鈴木良雄. プレミアムステージ 文京ジュニア・アスリート・アカデミー公開講座 スポーツと栄養 ジュニア選手のための食育学.

文京区民チャンネル (CATV)

2014年12月3日 (水)~7日 (日) 16:00~17:00

2015年1月12日 (月)~18日 (日) 16:00~17:00

2015年2月25日 (水)~2015年3月1日 (月) 19:00~20:00

8. 外部資金 (科研費除く) 獲得課題等を含む.

- 鈴木良雄. H25 (2013)~H27 (2014)独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構.”大課題「腸脳相関を介した精神的ストレス軽減効果の評価法の開発と発酵乳製品の検証」のうち 小課題⑥「ヒト心拍変動波形解析による自律神経系を用いたストレス評価」. 999千円. (2年目:内閣府 戦略的イノベーションプログラムに移行のため H26年度で終了)
- 鈴木良雄. H26 (2014)~H30 (2018) 内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (次世代農林水産業創造技術) 食シグナルの認知科学の新展開と脳を活性化する次世代機能性食品開発へのランドデザイン 8- (2) ヒトのバイオマーカーおよび心拍変動解析による自律神経系を用いたストレス評価, H26年度3,600千円 (5年総額14,760千円)

廣津 信義

②

Optimal batting orders in run-limit-rule baseball: a Markov chain approach. Hirotsu N and Bickel E. IMA Journal of Management Mathematics, doi:10.1093/imaman/dpu024, 2014 (査読有).

③

平成25年度体力・運動能力調査報告書. 内藤久土, 廣津信義, 関根紀子 他. 文部科学省 (2014).

④

野球の戦術のマルコフ決定過程による定式化 (その2).

廣津信義. 2014年日本 OR 学会春季研究発表会 (大阪). 平成26年3月7日. 2014年日本 OR 学会春季研究発表会アブストラクト集, 166-167 (2014).

Mathematical Modelling of Team Competition in Artistic Gymnastics. Hirotsu N, Harada M and Kano M. IFORS2014 (The 20th Conference of the International Federation of Operational Research Societies) (Barcelona, Spain), 平成26年7月14日, Book of abstract, 110 (2014).

野球の試合における簡易的な確率計算の方法—Excelのsheetを利用した表計算—. 廣津信義. 日本体育学会第65回大会 (岩手). 平成26年8月27日. 予稿集, 206 (2014).

表計算による球技の試合の確率算出の方法. 廣津信義. 2014年日本 OR 学会秋季研究発表会 (北海道). 平成26年8月29日. 2014年日本 OR 学会秋季研究発表会アブストラクト集, 238-239 (2014).

⑤

講演:

DEA とスポーツチーム・選手の評価. 廣津信義. 日本オペレーションズ・リサーチ学会北海道支部・サマースクール2014 (北海道). 平成26年8月6日.

Evaluation of sport teams and players using Data Envelopment Analysis. Hirotsu N. 2014 Incheon Asian Games International Sport Science Congress -In Commemoration of the 1988 Seoul Olympic Games (Incheon, South Korea). 平成26年8月21日. Book of abstract, 409 (2014).

論文査読:

日本武道学会「武道学研究」, 1件

日本オペレーションズ・リサーチ学会「オペレーションズ・リサーチ」, 1件

町田 修一

①

1. 町田修一 (分担執筆). 運動, 老化の生物学 (石井直明編集). P273-286, 化学同人, 東京, 2014年8月.

2. 内藤久土, 町田修一, 吉原利典 (分担執筆). Section 5 運動と筋—4 骨格筋の肥大と萎縮, ニュー運動生理学 (I) (宮村実晴編). p224-33, 真興交易株式会社医書出

版部, 東京, 2014年9月.

③

1. 町田修一 (分担執筆). 身体的特徴 (体格・身体組成) の加齢変化, 高齢者のこころとからだ事典 (日本老年行動科学会監修), p220-221, 中央法規出版, 東京, 2014年9月.
2. 町田修一 (分担執筆). 介護予防と運動, 高齢者のこころとからだ事典 (日本老年行動科学会監修), p228-229, 中央法規出版, 東京, 2014年9月.

④

〈国際学会〉

1. Tsuzuki T, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Kobayashi H, Machida S, Naito H. Changes in stress protein expression in skeletal muscle before the onset of metabolic abnormalities in type 2 diabetic rats. The 21th International Congress on Sport Science for Students, Budapest, April 2014.
2. Yoshihara T, Kurosaka M, Kakigi R, Takamine Y, Machida S, Sugiura T, Naito H. Alterations in HDACs expressions in response to endurance training in rat plantaris muscle. The American College of Sports Medicine 61th Annual Meeting, Florida, USA, May 2014. Med Sci Sports Exerc. 46: 5 supplement, 308-9, 2014.

〈国内学会〉

1. 都築孝允, 町田修一, 内藤久士. 2型糖尿病の予防に対する運動の効果〜OLETF ラットを用いた検討〜. 第160回日本体力医学会関東地方会, 東京, 2014年3月. 体力科学 63(3): 365; (2014)
2. 奈良輪有哉, 高木香奈, 須藤美智子, 町田修一. 暑熱環境下における活動経験年数が暑熱曝露時の発汗様相に及ぼす影響. 第160回日本体力医学会関東地方会, 東京, 2014年3月. 体力科学 63(3): 368; (2014)
3. 吉原利典, 町田修一, 黒坂裕香, 柿木 亮, 関根紀子, 杉浦崇夫, 内藤久士. ギプス固定による筋萎縮がラット腓腹筋におけるヒストン修飾および HDAC 発現量の変化に及ぼす影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 553; (2014)
4. 張碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久士. 再接地を行うタイミングの違いが萎縮時の細胞内シグナル伝達に及ぼす影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 554; (2014)
5. 川西範明, 町田修一, 鈴木克彦. 運動トレーニングが

- 肥満マウスの脂肪組織における繊維化に及ぼす影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 589; (2014)
6. 亀岡 舞, 内藤久士, 町田修一. 月経周期がレジスタンス運動後の筋タンパク質分解に関連する尿中マーカーに及ぼす影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 649; (2014)
 7. 野崎理沙, 町田修一, 加茂美冬. 最大随意収縮後の Postactivation Potentiation が最大下筋力発揮に及ぼす影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 541; (2014)
 8. 北田友治, 村田亮馬, 河合祥雄, 佐久間和彦, 仲村明, 町田修一, 内藤久士. 最大下および最大走運動中の呼吸筋における酸素動態. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 581; (2014)
 9. 村田亮馬, 北田友治, 町田修一, 内藤久士. 外側広筋の酸素化レベルと長距離走のパフォーマンスとの関連性. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 581; (2014)
 10. トウホウウ, 周亮福, 伍文権, 町田修一, 内藤久士. 中国中規模都市における青少年の生活習慣と肥満との関連性. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 669; (2014)
 11. 石原美彦, 吉村雅文, 町田修一, 内藤久士. 暑熱環境下におけるサッカー競技中のレフェリーの脱水状態. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 643; (2014)
 12. 尾崎隼朗, 北田友治, 町田修一, 内藤久士. ランニング及びサイクリングが大腿四頭筋の筋厚と筋酸素動態に与える影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 652; (2014)
 13. 棗 寿喜, 尾崎隼朗, 町田修一, 内藤久士. 受動的な関節動作と血流制限を組み合わせたトレーニングが筋肥大および筋力に及ぼす影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 654; (2014)
 14. 位高駿夫, 上水研一郎, 有賀誠司, 町田修一. IGF2 は柔道競技レベルを規定するアスリート遺伝子. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 697; (2014)
 15. 高木香奈, 位高駿夫, 上水研一郎, 有賀誠司, 町田修一. 日本人男子柔道トップアスリートの脱共役タンパク質遺伝子多型の特徴. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月. 体力科学 63(6): 697; (2014)
 16. 尾崎隼朗, 棗 寿喜, 渡辺圭佑, 町田修一, 内藤久

士. 大腿四頭筋への低強度での電気刺激と血流制限の組み合わせが筋肥大及び筋力増加に及ぼす影響. 第27回日本トレーニング科学会大会, 東京, 2014年11月.

17. 亀岡 舞, 町田修一, 小林祐幸, 内藤久士. 黄体期における高強度レジスタンス運動に対するホルモンの分泌応答は血清プロゲステロン濃度によって異なる. 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014年11月.

⑤

- 町田修一, 「運動・身体活動のエビデンス」のコメント, 公益財団法人健康・体力づくり事業財団, 2014年12月号.

⑥

➤ 講演

- 町田修一, 寝たきりを予防するための運動と栄養, 第20回順天堂職員ともの会講演会, 東京, 2014年5月.
- 町田修一, サルコペニアの予防・改善におけるホエイプロテインの役割, 第68回日本栄養・食糧学会大会ランチョンセミナー, 北海道, 2014年6月.
- 町田修一, サルコペニアを知る分子, 細胞レベルから覗く骨格筋研究, 東京, 2014年7月.
- 町田修一, 運動生理学III, 第95回健康運動実践指導者養成講習会, 東京, 2014年8月.
- 町田修一, 日本人における乳清たんぱく質摂取の重要性, アメリカ乳製品輸出協会プレスセミナー, 東京, 2014年10月.

➤ 公開講座

- 町田修一, 介護・寝たきりを予防するための運動と栄養, 平成26年度順天堂大学ロコモ予防対策 公開講座, 千葉, 2014年11月.

➤ TV・雑誌などの解説・インタビュー
特記事項無し

➤ 学会誌等の査読経験 (雑誌名記載のこと)

- Frontiers in Aging Neuroscience
- PLOS ONE
- Biological Trace Element Research
- The Journal of Physiological Sciences
- The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine

➤ 外部資金 (科研費除く) 獲得

『民間研究助成』

- 腸内フローラと腸管バリア機能の制御に基づく運動によるメタボリックシンドローム改善機構の解明, 平成26年度一般課題研究助成公益財団法人ヤクルト・バイオサイエンス研究財団. (研究代表者: 川西範明; 研究分担者: 町田修一)

『受託研究』

- アスリートの筋肉増強を促進するタンパク源の探索とその作用メカニズムの解明. (研究代表者: 町田修一)
- 筋サテライト細胞の脂肪細胞化抑制素材の探索. (研究代表者: 町田修一)
- 筋脂肪化抑制作用の検証. (研究代表者: 町田修一)

以上

柳谷登志雄

①

- 1) 柳谷登志雄 監修「世界が認めるスーパーダンサー TAKAHIRO が考案! アニソンエクササイズ」2014年3月

③

- 1) 千葉佳裕, 佐久間和彦, 柳谷登志雄, 青木和浩. 「陸上競技男子400 mH 競技者における4歩ハードルトレーニングの効果について」, 城西情報科学研究 23(1), 21-27, 2014

④

- 1) 柳谷登志雄. 「小学生の長距離走技術の観点・評価項目をキネマティクスデータから検討する」日本体育測定評価学会, シンポジウム「動きを評価する」, 2014年3月.
- 2) S. Hashizume, A. Fukutani, K. Kusumoto, T. Kurihara, Toshio Yanagiya. Error evaluation of the tendon excursion for determining the Achilles tendon moment arm by comparing the three-dimensional value. 7th World Congress of Biomechanics. 2014.
- 3) 柳谷登志雄, 辻 秀憲, 橋詰 賢, 「アニソンエクササイズ」実施中の筋活動量に関する研究. 日本トレーニング科学会, 2014年11月.
- 4) 堀口芳起, 橋詰 賢, 柳谷登志雄. 接地パターンの違いが mechanical advantage および足部に作用する力へ及ぼす影響, 日本トレーニング科学会, 2014年11月.

- 5) 成ヶ澤史弥, 清水暢, 柳谷登志雄. 長時間の歩行が足部機能に及ぼす影響. 日本トレーニング科学会, 2014年11月.
 - 6) 橋詰 賢, 柳谷登志雄. 接地パターンの違いが mechanical advantage および足部に及ぼす影響. 日本トレーニング科学会, 2014年11月.
 - 7) 和田純弥, 山崎一彦, 柳谷登志雄, 佐久間和彦, 青木和浩. 110 m ハードル走における下肢スティッフネスの特性. 日本陸上競技学会第13回大会(北翔大学)2014年11月
- ⑤
- 1) 柳谷登志雄「現場に生かせる 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座, 第32回連載, CTで骨格筋をイメージングする」コーチングクリニック2015年5月号, pp78-82. 2014年.
 - 2) 柳谷登志雄「現場に生かせる 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座, 第31回連載, 睡眠を改善して競技力を向上する」コーチングクリニック2015年4月号, pp66-71. 2014年.
 - 3) 柳谷登志雄「現場に生かせる 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座, 第30回連載, 筋電図を活用して競技力向上に生かそう」コーチングクリニック2015年3月号, pp70-75. 2014年.
 - 4) 柳谷登志雄「現場に生かせる 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座, 第29回連載, 筋力トレーニングを実施する上で知っておくと役立つ基礎知識」コーチングクリニック2015年2月号, pp74-78. 2014年.
 - 5) 柳谷登志雄「現場に生かせる 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座, 第28回連載, 筋肉を温めて強くする」コーチングクリニック2015年1月号, pp67-70. 2014年.
 - 6) 柳谷登志雄「現場に生かせる 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座, 第27回連載, 足部の構造と特徴, そして役割を知る」コーチングクリニック2014年12月号, pp70-74. 2014年.
 - 7) 柳谷登志雄「現場に生かせる 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座, 第26回連載, ランニングシューズの相違や劣化が与える影響」コーチングクリニック2014年11月号, pp78-82. 2014年.
 - 8) 柳谷登志雄「現場に生かせる 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座, 第25回連載, 超音波画像で筋肉を見る」コーチングクリニック2014年10月号, pp72-75. 2014年.
 - 9) 柳谷登志雄「特集 瞬発力を磨く Part 2 瞬発力の基礎知識」コーチングクリニック2014年9月号, pp10-13. 2014年.
 - 10) 柳谷登志雄「現場に生かせる 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座, 第24回連載, “運動で積極的に脂肪が燃焼されるドリンク” から, 運動における糖と脂肪の役割を考える」コーチングクリニック2014年8月号, pp75-78. 2014年.
 - 11) 柳谷登志雄「現場に生かせる 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座, 第23回連載, ウェアラブルデバイスでトレーニング量やパフォーマンスをモニタする」コーチングクリニック2014年7月号, pp71-74. 2014年.
 - 12) 柳谷登志雄「現場に生かせる 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座, 第22回連載, トレーニングシューズを活用して練習や身体調整の効果をあげる」コーチングクリニック2014年6月号, pp75-79. 2014年.
 - 13) 柳谷登志雄「現場に生かせる 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座, 第21回連載, スプリント走能力の加齢変化に関する決定因子を探る」コーチングクリニック2014年5月号, pp68-73. 2014年.
 - 14) 柳谷登志雄「現場に生かせる 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座, 第20回連載, スポーツ動作情報の解析データを指導に生かす」コーチングクリニック2014年4月号, pp68-73. 2014年.
 - 15) 柳谷登志雄「現場に生かせる 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座, 第19回連載, ランニングシューズのクッションやバネの効果」コーチングクリニック2014年3月号, pp68-73. 2014年.
 - 16) 柳谷登志雄「現場に生かせる 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座, 第18回連載, 子どもの成熟度とスポーツの関係について考える」コーチングクリニック2014年1月号, pp68-73. 2014年.
 - 17) 柳谷登志雄「現場に生かせる 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座, 第17回連載, エネルギー供給能力を強化するインターバル・トレーニング」コーチングクリニック2014年12月号, pp78-82. 2014年.
 - 18) 柳谷登志雄. 「ダンス×科学 トレーニング科学の専門家が科学的に検討!」. 『美的』7月号.
 - 19) 柳谷登志雄. 「インターハイにおける科学委員会バイオメカニクス研究活動報告」陸連時報. 陸上競技マガジン12月号pp. 208-209.

⑥

〈商品監修〉

- 1) スマホ用ボディメイクサポートアプリ「RenoBody」(ネオス株式会社).
- 2) 女性用ウォーキングパンプス「All Day Walk」(United Colors Benetton)

〈講演・講師〉

- 1) 千葉県スポーツ推進委員連合会拡大女性部交流会講師「高齢者のロコモ予防のトレーニング指導の方法(指導の仕方, 注意点)」。1月26日(日), 千葉県スポーツ科学センター.
- 2) 日本体育測定評価学会大会シンポジウム『動きを評価する』。「小学生の長距離走技術の観点・評価項目をキネマティクスデータから検討する」。3月9日(日), 天理大学.
- 3) 千葉県流山市コミュニティスポーツリーダー講習会「筋力アップのためのトレーニング」。千葉県流山市教育委員会。4月13日(日), 千葉県流山市生涯学習センター.
- 4) 学びと集い2014—千葉県スポーツ推進委員研修会講師「ロコモティブ症候群の予防」8月30日(土), 千葉県スポーツ科学センター
- 5) 千葉県社会体育公認指導員養成講習会「トレーニング論」, 「ジュニア期のスポーツ」。9月7日(土), 千葉県スポーツ科学センター.
- 6) 成田市健康ボランティア研修会第2回「ロコモティブシンドロームについて」。9月17日(水), 成田市保健福祉館.
- 7) 佐倉市民カレッジ元気コース「順天堂大学1日体験学習」。9月18日(木), 順天堂大学さくらキャンパス.
- 8) 花咲幼稚園講演会「子どものカラダと運動の話」10月23日(木), 花咲幼稚園(埼玉県加須市)
- 9) 「瞬足陸上教室」11月16日, 熊本県熊本市白坪小学校.
- 10) 印西市公開講座「陸上教室(俊足プログラム)」11月26日(土), 順天堂大学さくらキャンパス
- 11) 佐倉市民カレッジ「「スポーツ健康科学～体験学習のまとめ～」12月17日(火), 佐倉市公民館.

〈テレビ出演〉

- 1) まいにちスクスク(NHK E テレ)。「親子でがんばる運動会。～運動会で力を発揮するには～」9月8日(月) 10:55～(再放送・9月15日〔月〕19:55～)
- 2) まいにちスクスク(NHK E テレ)。「親子でがんばる運動会。～運動会直前にできること～」9月9日(火)

10:55～(再放送・9月16日〔火〕19:55～)

- 3) まいにちスクスク(NHK E テレ)。「親子でがんばる運動会。～子どもの潜在能力を伸ばす～」9月10日(水) 10:55～(再放送・9月17日〔水〕19:55～)
- 4) まいにちスクスク(NHK E テレ)。「親子でがんばる運動会。～パパママが運動会で活躍するには～」9月11日(木) 10:55～(再放送・9月18日〔木〕19:55～)
- 5) 「すくすく子育て」内コーナー「すくすくチャージ」運動会で力を発揮 9月13日(土) 21:00～(再放送・9月19日〔金〕10:30～)
- 6) 「すくすく子育て」内コーナー「すくすくチャージ」パパママが活躍。9月20日(土) 21:00～(再放送・9月26日〔金〕10:30～) 9月27日(土) 21:00～(再放送・10月3日〔金〕10:30～)
- 7) 「すくすく子育て」内コーナー「すくすくチャージ」子どもの潜在能力9月27日(土) 21:00～(再放送・10月3日〔金〕10:30～)
- 8) 「すくすく子育て」内コーナー「すくすくチャージ」運動会直前にできること10月11日(土) 21:00～(再放送・10月17日〔金〕10:30～)
- 9) 「中居正弘のミになる図書館」ダイエット 7月8日 23:25～0:25, テレビ朝日
- 10) 『グッド!モーニング』解説 6月3日, 4時55分～8時00分, テレビ朝日

〈社会活動〉

日本陸上競技連盟科学委員会幹事
日本オリンピック委員会スポーツ医科学委員

〈学会誌査読〉

『体育学研究』日本体育学会
『トレーニング科学』日本トレーニング科学会
『コーチング学研究』日本コーチング学会

和気 秀文

①

和気秀文:「ニュー運動生理学(I)(II)」第11章 運動と循環—4, 心血管の中樞性調節. 宮村実晴編集, 真興交易株式会社医書出版部, 東京, 2014

②

Kohsaka A, Das P, Hashimoto I, Nakao T, Deguchi Y, Gouraud SS, Waki H, Muragaki Y, Maeda M: The circadian

clock maintains cardiac function by regulating mitochondrial metabolism in mice. *PLoS One*, 9 (11): e112811. doi: 10.1371/journal.pone.0112811. 2014 (査読あり)

Sakata S, Nakatani A, Waki H: Possible mechanisms underlying wheel-running-induced hypotensive effects. *J Phys Fitness Sports Med*, 3(4): 429-433, 2014 (査読あり)

Waki H (corresponding author), Takagishi M, Gouraud SS: Central mechanisms underlying anti-hypertensive effects of exercise training. *J Phys Fitness Sports Med*, 3(3): 317-325, 2014 (査読あり)

Katsuda S, Yamasaki M, Waki H, Miyake M, Oishi H, Katahira K, Nagayama T, Miyamoto Y, Hasegawa M, Wago H, Okouchi T, Shimizu T: Spaceflight affects postnatal development of the aortic wall in rats. *Biomed Res Int*, 2014: 490428. doi: 10.1155/2014/490428, 2014 (査読あり)

Sueta D, Koibuchi N, Hasegawa Y, Toyama K, Uekawa K, Katayama T, Ma MJ, Nakagawa T, Waki H, Masanobu Maeda M, Ogawa H: Blood pressure variability, impaired autonomic function and vascular senescence in aged spontaneously hypertensive rats are ameliorated by angiotensin blockade. *Atherosclerosis*, 236(1): 101-107, 2014 (査読あり)

Takagishi M, Gouraud SS, Bhuiyan ME, Kohsaka A, Maeda M, Waki H (corresponding author): Activation of histamine H1 receptors in the nucleus tractus solitarius attenuates cardiac baroreceptor reflex function in rats. *Acta Physiol (Oxf)*. 211: 73-81, 2014 (査読あり)

Waki H (corresponding author), Gouraud S: Brain inflammation in neurogenic hypertension. *World J Hypertens* 4: 1-6, 2014. (査読あり)

④

和気秀文: 運動時の中枢性血圧調節とトレーニングによるその可塑性 —運動療法による抗高血圧効果の機序を探る—。シンポジウム「中枢神経に主眼を置いた血圧調節研究の現状と展望」, 第50回高血圧関連疾患モデル学会学術総会, 和歌山県立医科大学 生涯研修センター, 2014年12月

中尾友美, 向阪 彰, 北内真理子, 小形 光, Gouraud S

Sabine, 和気秀文, 前田正信: 糖尿病発症における心臓の時計遺伝子の関与について。第107回近畿生理学談話会, 2014年10月

和気秀文: 運動時循環応答の中心性機序—視床下部結節乳頭核—延髄孤束核経路の役割。第69回日本体力医学会大会, 長崎大学文教キャンパス, 2014年9月

和気秀文: 視床下部結節乳頭核—延髄孤束核経路は運動時の昇圧反応に関与する。第35回日本循環制御医学会総会, 九州大学医学部 百年講堂, 2014年6月

Gouraud S Sabine, 和気秀文, 高岸美和, 向阪 彰, 前田正信: SHR 孤束核におけるプレプロオレキシン遺伝子発現低下は高血圧発症に関与する。Downregulation of prepro-orexin gene expression in the NTS of SHR may be prohypertensive. 第91回日本生理学会大会, 鹿児島大学 郡元キャンパス, 2014年4月

和気秀文, 高岸美和, Gouraud S Sabine, 向阪 彰, 前田正信: 運動習慣による抗高血圧効果とセロトニン作動性神経系との関係。Central serotonergic system may be involved in mechanisms underlying anti-hypertensive effect of exercise therapy. 第91回日本生理学会大会, 鹿児島大学 郡元キャンパス, 2014年4月

高岸美和, 和気秀文, Gouraud S Sabine, 向阪 彰, 前田正信: 延髄孤束核内ヒスタミン受容体 H1 の動脈圧受容器反射調節作用。Activation of NTS histamine H1 receptors modulates the gain of baroreflex control of heart rate in rats. 第91回日本生理学会大会, 鹿児島大学 郡元キャンパス, 2014年4月

橋本いずみ, 向阪 彰, Das Partha, 中尾友美, Gouraud S Sabine, 和気秀文, 前田正信: 生体リズムの異常は心筋ミトコンドリア機能を低下させる。Circadian desynchronization disrupts heart mitochondrial metabolism in mice. 第91回日本生理学会大会, 鹿児島大学 郡元キャンパス, 2014年4月

坂田 進, 花岡智子, 高田義弘, 奥田俊詞, 保井俊英, 鷲尾弘枝, 竹下大輔, 石見恵子, 今北英高, 峯松 亮, 和気秀文, 中谷 昭: OLETF ラットにおいて自発的運動は糖

尿病の発症を抑制し運動パフォーマンスを改善する。
Voluntary exercise suppresses development of diabetes mellitus and improves exercise performance in OLETF rats. 第91回日本生理学会大会, 鹿児島大学 郡元キャンパス, 2014年4月

⑥

査読

Cytokine

Experimental Physiology

The Journal of Physiological Sciences

World Journal of Methodology

The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine

体力科学

その他

第70回日本体力医学会大会実行委員

第70回日本体力医学会大学術プログラム委員長

日本体力医学会編集委員

Editor of the Journal of Physical Fitness and Sports Medicine

Editor of World Journal of Hypertension

高血圧関連疾患モデル学会ありかた委員

日本宇宙航空環境医学会広報委員

日本生理学会生理学エディター

ニューロネットワークと循環研究会(武田薬品)メンバー

助教

窪田 敦之

④

【国外】

1. Wakamatsu K, Sakuraba K, Fujita S, Sanomura M, Mukaimoto T, Kubota A. Bone Metabolism Markers In Collegiate Female Track-and-field Athletes. American College of Sports Medicine 61st annual meeting. 2014. 5. Orland

【国内】

1. 近藤彰彦, 柳川洋一, 大森一彦, 大坂裕通, 大出靖将, 杉田 学, 窪田敦之, 桜庭景植, 神田彰男, 糸井陽, 大林 治. body board injury の特徴についての検討. 第64回日本救急医学会関東地方会. 2014.2. 神奈川
2. 大森一彦, 柳川洋一, 大坂裕通, 近藤彰彦, 大出靖

将, 岡本 健, 窪田敦之, 桜庭景植, 神田彰男, 糸井陽, 大林 治. 過去5年間のドクターヘリで搬送したbody board injury の臨床的特徴. 第28回日本外傷学総会・学術集会. 2014.6. 東京

3. 福士徳文, 桜庭景植, 吉村雅文, 窪田敦之, 青葉幸洋, 藤田真平. ターン動作における足底圧と下肢筋力の関係: 第5中足骨疲労骨折との関連を中心に. 日本体育学会第65回大会. 2014.8. 岩手

4. 窪田敦之, 桜庭景植, 藤田真平, 大久保岳水. 疲労回復またはパフォーマンス低下軽減に対するコンプレッションウェアの有用性. 第69回日本体力医学会大会. 2014.9. 長崎

5. 大森一彦, 小日向麻里子, 大坂裕通, 三島健太郎, 石川浩平, 大出靖将, 窪田敦之, 桜庭景植, 柳川洋一. 過去5年間のドクターヘリで搬送したbody board injury とマリンスポーツ以外の脊髄損傷との比較検討. 第42回日本救急医学会総会・学術集会. 2014.10. 福岡

6. 石川朝登, 桜庭景植, 窪田敦之. 大学男子長距離選手の足部外転とランニング障害の関係. 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会. 2014.11. 東京

7. 鈴木 恒, 桜庭景植, 窪田敦之. 成長期サッカー選手の大腿前面に対するストレッチ手技の違いによる柔軟性改善効果の比較. 第25回日本臨床スポーツ医学会. 2014.11. 東京

8. 遠藤慎也, 桜庭景植, 窪田敦之. 異なる収縮様式での筋力トレーニングおよび脱トレーニングが筋力および筋横断面積に及ぼす影響. 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会. 2014.11. 東京

9. 河村剛光, 窪田敦之, 青葉幸洋, 中田 学, 青木和浩. 速度と球種の異なる投球による打撃練習及び見るトレーニングが打撃能力と視覚機能に及ぼす影響. 第27回日本トレーニング科学学会大会. 2014.11. 東京

⑥

【講演・公開講座】

1. 地域・職場で役に立つ運動療法の実際(実技指導). 東京都医師会・墨田区医師会産業医研修会. 2014.2. 東

京

2. 若手教員から学ぶスポーツ科学体験！ ～出力・入力・メンタル～. 順天堂大学スポーツ健康科学部公開講座. 2014.11. 千葉

【学会誌等の査読経験】

Acta Physiologica 1件

河村 剛光

①

1. 河村剛光. 第3章 運動と視覚 5) 各視覚機能. ニュー運動生理学(I) 宮村実晴 編. 真興交易㈱. 東京 pp. 140-147. 2014.
2. 石垣尚男, 河村剛光. 第3章 運動と視覚 4) 動体視力. ニュー運動生理学(I) 宮村実晴 編. 真興交易㈱. 東京 pp. 133-139. 2014.

②

3. Someya Y, Kawai S, Kohmura Y., Aoki K. and Daida H. Cardiorespiratory fitness and the incidence of type 2 diabetes: a cohort study of Japanese male athletes. BMC Public Health 14: 493 2014.

③

4. 体格体力累加測定委員会. 2013年度順天堂大学体格体力累加測定. 順天堂スポーツ健康科学研究. 第5巻 Suppl, pp. 10-26, 2014.

④

5. 河村剛光, 村上茂樹, 川田裕次郎, 木崎健太, 青木和浩. 野球及び陸上競技を専門とする大学スポーツ選手のサングラス使用実態. 第21回スポーツビジョン研究会. 2014.
6. 木崎健太, 河村剛光, 青木和浩. ディフェンシブスタイルによるノルディックウォークが高齢者の体力に与える効果. 第3回 日本ノルディックウォーク学会学術大会. 2014.
7. 河村剛光, 窪田敦之, 青葉幸洋, 中田 学, 青木和浩. 速度と球種の異なる投球による打撃練習及び見るトレーニングが打撃能力と視覚機能に及ぼす影響. 日本トレーニング科学会 第27回大会. 2014.
8. 青木和浩, 河村剛光, 中丸信吾, 渡辺圭祐. 小学生の

跳躍能力とバウンディングの関係. 日本陸上競技学会 第13回大会. 2014.

助手

門屋 悠香

④

〈国内学会〉

1. 門屋悠香, 鹿倉二郎, 櫻庭景植. 足関節捻挫経験がしゃがみこみ動作に及ぼす影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月
2. 柳沼志帆, 門屋悠香, 櫻庭景植, 鈴木良雄. 小学校低学年児童の運動習慣と生活習慣の関連. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月
3. 大森由紀, 横山和仁, 松川岳久, 角田弘子, 宮田美恵子, 鈴木良雄, 櫻庭景植, 門屋悠香, 柳沼志帆, 鯉淵絵理. 幼児の毛髪中有害元素濃度とBDHQから推定された食事摂取量との関係. 第84回日本衛生学会学術総会, 岡山, 2014年5月
- ⑥
1. 千葉県佐倉市 佐倉市民カレッジ 講師 2014年7月
2. 東京都千代田区 生活習慣病予防教室 講師 2014年7月, 11月
3. 千葉県白井市 白井市スポーツ指導者養成講座 講師 2014年12月

中潟 崇

②

松下宗洋, 澤田 亨, 中潟 崇, 西 信雄, 奥田奈賀子, 宮地元彦, 国民健康・栄養調査の歩数データの特性, 日本公衆衛生雑誌, 第61巻11号686-691, 2014年

④

〔国際(海外)学会発表〕

1. Nakagata T, Naito H, Katamoto S. The Effect Of Transdermal Nicotine Patch On Energy Expenditure. The American College of Sports Medicine 61th Annual Meeting, Florida, USA, 2014年5月. Med Sci Sports Exerc. 46: 5 supplement, 496, 2014.

⑥

【民間研究助成】

平成26年度 笹川科学研究助成金交付 (600,000円)

「ニコチンパッチが運動時の生理学的応答に及ぼす影響～禁煙時の適切な運動処方のために」

【その他】

平成26年度 順天堂大学市民公開講座 (介護・寝たきりを予防するための運動と栄養) 2014年11月1日

日本バイアスロン連盟 科学委員 (体力測定, 競技力向上のための医科学サポート)

そごう西武カラダステーション健康づくりアドバイザー

コーチング科学コース

教授

加納 實

③

1. 施設設備の設置に関する基本調査プロジェクト
～体操競技場に設置された器械のメンテナンスに関する調査～

竹田幸夫・加納 實

体操競技・器械運動研究22号: 57-59 (2014.3)

2. あん馬における「縦向き旋回1回ひねり (シュピンデル)」の技術に関する研究

久住亮介・加納 實

体操競技・器械運動研究22号: 89-90 (2014.3)

3. 体操競技における股関節外旋が下肢の振り上げ動作に及ぼす影響

洗崎友紀子・加納 實

順天堂スポーツ健康科学研究第6巻第1号 (66): 17-21 (2014.12)

⑤

雑誌・新聞等

加納 實. 世界体操総括, しんぶん赤旗 (2014.10.19)

⑥

公開講座

スーパーなわとび教室 (浦安市, 2014.3.26)

学術雑誌査読

日本体操競技・器械運動研究

佐久間和彦

②

スプリントトレーニングがヒト骨格筋の ACTN3 タンパク質発現量に及ぼす効果

順天堂スポーツ健康科学研究 第6巻 2015掲載予定

○中村智洋, 内藤久土, 佐久間和彦

③

報文

「運動部に所属する大学生の栄養素摂取の実態」

調理食品と技術 第20号第3巻: 105-111 (2015.2)

○中嶽 誠, 佐久間和彦, 鈴木良雄, 他

④

1. 19th Annual congress of the ECSS: Amsterdam HOLLAND

The level of ACTN3 protein expression does not influence knee extensor strength

○Tomohiro Nakamura, Ryo Kakigi, Noriko Ichinoseki-Sekine, Hiroyuki Kobayashi, Kazuhiko Sakuma, Syuichi Machida, Hisashi Naito

2. 順天堂整形外科スポーツフォーラム 2014.1.24
TKP ガーデンシティ竹橋

シンポジウム: 肉離れの発生要因と予防トレーニングの効果

杉浦雄策, 佐久間和彦, 櫻庭景植, 他

3. 日本陸上競技学会第13回大会 北翔大学 2014.11/29-30

一般研究発表 110mハードル走における下肢ステップネスの特性

和田純弥, 山崎一彦, 柳谷登志雄, 佐久間和彦, 青木和浩

⑤

雑誌

「月刊陸上競技」講談社 2015 3月号10-13

卒業後もパーソナルコーチとして指導している「高瀬慧: 富士通」選手への聞き取りインタビューで今年度の展望を紹介した。

ウェブ新聞等

- 産経新聞 ウェブページ連載 平成27年1月31日『アジアで銅につながった高瀬慧選手の綿密な計画』
- 産経新聞 ウェブページ連載 平成26年5月10日『自己新連発！高瀬が生み出す「脱力」の境地』において、聞き取り調査法で応えた。

⑥

外部資金獲得

アシックスより、5,000,000円 陸上競技部へ

菅波 盛雄

④

国内学会発表

1. 小崎亮輔, 菅波盛雄 中学校柔道履修者のイメージ調査 武道学研究 第47巻 別冊 57, 2014
2. 高田博文, 菅波盛雄 他 柔道競技における故意的な過呼吸が競技パフォーマンスと拾う改善に及ぼす影響 武道学研究 第47巻 別冊 75, 2014

⑤

1. 菅波盛雄, 小崎亮輔 平成26年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会. 柔道 85巻1号 38-55 2014

鈴木 大地

①

「鈴木大地メソッド」(毎日新聞社)

「僕がトップになれたのは、いつも人と違うことを考えていたから」(マガジンハウス)

「健康長寿のためのスポトロロジー」(一般財団法人放送大学教育振興会)

③

「スポーツ外交強化に関する有識者懇談会最終報告書」(外務省)

「日本選手権水泳競技大会総括」(毎日新聞)

⑤雑誌・新聞等：

- 「インターハイについて」(読売新聞)
- 「スポーツ団体の組織運営」(毎日新聞)
- 「スポーツ競技の転向」(毎日新聞)

「サッカーW杯」(毎日新聞)

「海での実習」(毎日新聞)

「スポーツの母国愛」(毎日新聞)

⑥

第8回血液を大切にすると「東京五輪について」

第33回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会「水中運動がもたらす効果について」

長登 健

②

長登 健, 野川春夫: 日本の生涯スポーツ政策における地域スポーツクラブ育成の変遷. 生涯スポーツ学研究 Vol. 10: 1-9 (2014)

③

舛本直文, 長登 健, 菊 幸一, 坂本拓弥, 林 洋輔: 体育・スポーツ指導における体罰・暴力問題: 人間の尊厳保持と豊かなスポーツ文化の発展に向けて, 体育・スポーツ哲学研究 36-1 (2014)

④

山本浩佑, 長登健, 高橋季絵, 渡辺泰弘, 野川春夫: 地域スポーツクラブ入会に対する子育て世代の意識～スポーツライフスタイルに着目して～, 日本体育学会第65回大会, 岩手県, 2014.9

⑥

講演等

- 福岡県高等学校保健体育科主任会講演, 2014.5
- 富山県南砺市福光中部小学校・楽しい体育実践研究事業(平成26・27年度県委託事業)指導助言
- 千葉県私立学校教育研修集会講演, 2014.11
- 千葉県立館山総合高等学校校内研修会講師, 2014.12
- 東京都文京区立本郷小学校校内研究会講師, 2014.12
- 東京都杉並区立方南小学校校内研修会講師, 2014.12

濱野 光之

②

1. 勝俣康之, 小山桂史, 田中博史, 濱野光之, 渡辺圭佑, 柳谷登志雄. プライオメトリックトレーニングが試合期の大学女子バレーボール選手におけるジャンプ能力

に及ぼす影響. 大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部
紀要 国際研究論叢, 27(3), 1-10, 2014.

③

1. 濱野光之, 神原直幸, 他3名. 2013年度さくらキャンパス学生実態調査報告. 順天堂大学スポーツ健康科学研究, 5, Supplement, 27-31, 2014.

吉村 雅文

②

【原著】

1. 2012年度関東大学サッカーリーグ戦における得点の傾向 今川正浩, 加藤 譲, 八百則和, 吉村雅文他, 東海大学紀要体育学部 第43号, 89-96, 2014
2. The Role of Soccer in Slowing the Decline of Visual Function Caused by Aging: a Study of Young and Middle-aged Subjects Human Performance Measurement Mitsuru NAKAMURA, Masafumi Yoshimura, Yukihiro Aoba, Masaki NAKANO, Yuu SHIMAZAKI, Vol. 11, 1-7, 2014

④

1. 内田靖之, 加藤淳司, 増田研一, 吉村雅文, 下河内洋平, 島 洋佑. 第27回ユニバーシアード競技大会男子サッカー日本代表帯同報告 —メディカルサポートの実際と障害報告— 第25回日本臨床スポーツ医学会, 大会研究発表抄録集
2. ブラインドサッカー選手の敏捷性に関する基礎的研究: 第18回日本アダプテッド体育・スポーツ学会(神戸), 前鼻啓史, 吉村雅文, 渡邊貴裕

⑥

【査読】

1. 吉村雅文. 体育学研究
投稿詳細
論文番号: 14088

前任准教授

青木 和浩

②

1. 今関豊一, 荻原朋子, 青木和浩, 松橋義己, 酒匂宙

夢, 棗 寿喜. 体育科学習内容を明確にした小学校持久走授業の検討. 日本陸上競技学会誌. 第12巻第1号, 55-69, 2014

2. Someya Y, Kawai S, Kohmura Y, Aoki K, Daida H. Cardiorespiratory fitness and the incidence of type 2 diabetes: a cohort study of Japanese male athletes. BMC Public Health, 14: 493-498, 2014

③

1. 青木和浩, 廣瀬伸良, 他6名. 2013年度順天堂大学体格体力累加測定. 順天堂大学スポーツ健康科学研究 5, supplement, 10-26, 2014

④

1. 河村剛光, 村上茂樹, 川田裕次郎, 木崎健太, 青木和浩. 野球及び陸上競技を専門とする大学スポーツ選手のサングラス使用実態. 第21回スポーツビジョン研究集会, 2014.8
2. 木崎健太, 河村剛光, 青木和浩. ディフェンシブスタイルによるノルディックウォークが高齢者の体力に与える効果. 第3回日本ノルディックウォーク学会学術大会, 2014.8
3. 河村剛光, 窪田敦之, 青葉幸洋, 中田 学, 青木和浩. 速度と球種の異なる投球による打撃練習及び見るトレーニングが打撃能力と視覚機能に及ぼす影響. 第27回日本トレーニング科学会大会, 2014.11

4. 青木和浩, 河村剛光, 中丸信吾, 渡辺圭祐. 小学生の跳躍能力とバウンディングの関係. 日本陸上競技学会第13回大会, 2014.11
5. 和田純弥, 山崎一彦, 柳谷登志雄, 佐久間和彦, 青木和浩. 110 m ハードル走における下肢スティフネスの特性. 日本陸上競技学会第13回大会, 2014.11

⑤

1. TDU いんざいイノベーション推進センター第3回交流会 講師「スポーツ健康科学における体力の意味するものとは何か?」2014年2月19日
2. 平成25年度葛飾区スポーツ指導員養成講習会 講師「発育・発達・老化とスポーツプログラム」2014年2月

23日

3. 平成26年度栃木県県央地区スポーツ活動指導者講演会
講師「健康づくりーよりアクティブな生活を目指してー」
2014年6月14日
4. 平成26年度群馬県視覚障害教育部会研修 講師「運動技能の向上に着目した授業・指導のあり方」平成26年7月25日
5. 平成26年度文京区教育課程研修会 講師「子どもの体力向上について」平成26年7月28日
6. 平成26年度白井市教育センター室夏期研修講座 講師「子どもの体力・運動技能を高める効果的な指導法」
2014年8月19日
7. しずい青樹堂1・2期生講座 講師「中高年の体力づくり」2014年11月20日
8. 「健康カプセル! ゲンキの時間」〜どっちが正しいか大激論!〜あなたの健康法間違ってますよ! 2014年12月7日・TBS テレビ

⑥

学会誌等の査読経験 (雑誌名記載のこと)

日本コーチング学研究	2本
日本陸上競技学会	1本
陸上競技研究	4本

鯉川なつえ

①

スマート栄養管理術123第2章「スポーツ栄養管理：有酸素運動とは、無酸素運動とは」：鯉川なつえ，医歯薬出版，34-38，2014.1

③

中嶽 誠，河合祥雄，広沢正孝，櫻庭景植，小熊英伸，島内憲夫，鈴木美奈子，田辺 正，鈴木大地，吉村雅文，青葉幸洋，山田 満，佐久間和彦，越川一紀，仲村 明，青木和浩，山崎一彦，鯉川なつえ，高梨雄太，長門俊介，平尾智美，加納 實，原田陸巳，富田洋之，濱野光之，菅波盛雄，廣瀬伸良，中村 充，砂見綾香，佐々木和登，川野

因，鈴木良雄，JNASグループ：運動部に所属する大学生の栄養素摂取の実態，調理食品と技術：日本調理食品研究会誌．20(3)：105-111，2014

④

Natsue KOIKAWA: Developing a safe and effective training method for elite runners before and after pregnancy, 2014 Canadian Sport for Life National Summit, 2014.1.29

Natsue KOIKAWA, Etsuko OGASAWARA : Assess the effectiveness of oral contraceptive pill (OCP) for conditioning female athletes: A case study of Japanese elite runners, The 6th IWG World Conference on Women and Sport, 163, 2014.6

平尾朋美，鯉川なつえ，窪麻由美，大沢亜紀，桜庭景植．大学女子陸上競技者における種目別骨密度と月経および身体組成との関連．日本陸上競技学会第13回大会，P33，2014.11

窪麻由美，中尾聡子，菊地 盤，田嶋 敦，野島美知夫，吉田幸洋，鯉川なつえ：女性アスリート外来開設の経緯，第28回女性スポーツ医学研究会学術集会抄録集，P7，2014.12

⑤

鯉川なつえ：毎日新聞（夕刊）コラム「ママは監督」，2014年1月から3月火曜連載
鯉川なつえ：カナダの取り組みに学ぶ女性指導者育成法，Sports Japan 特別号，P17-20，2014.11

⑥

鯉川なつえ：第33回全国都道府県対抗女子駅伝，解説，NHK，2014.1.11

鯉川なつえ：第35回まつえハーフマラソン兼第17回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会，解説，フジテレビ，2014.3.16

鯉川なつえ：スポーツ貧血の常識・非常識〜スポーツ指導者への提言〜，第1回日本スポーツ栄養学会ランチョンセミナー，2014.7

鯉川なつえ：平成26年度千葉県アスレティックトレーナー

シンポジウム, 千葉県体育協会主催, 2014.12

鯉川なつえ: 第26回全国高校女子駅伝, 解説, NHK, 2014.12.22

鯉川なつえ: 論文査読「陸上競技研究」

以上

越川 一紀

⑤

1. 「文京ジュニア・アスリート・アカデミー (BJAA)」
陸上教室, 2014年5月～(月2回実施)

中村 恭子

③

1. 中村恭子: 中学校の実態調査: ダンス男女必修化に伴う変容と課題. 『多様性の捉え方をめぐって ダンス授業におけるジェンダーを考える「多様な身体を目指すジェンダーフリーなダンス教育法の開発と構築」報告書』分担著, 猪崎弥生編著, 55-71, 2014.3.
2. 中村恭子, 廣澤正孝, 細見修, 山倉文幸, 鈴木利人, 輪島留美子, 久保田陵一, 吉田理恵: 精神科リハビリテーションとしてのスポーツ活動の有効性—歩行運動時におけるBGMや他者との交流の有無が心理的・生理的ストレス反応に及ぼす影響—. 病院・地域精神医学57(1) 81-84, 2014.10.
3. 中村恭子, 中村なおみ, 宮本乙女, 原田純子: 「中学校ダンス必修化に関する調査」報告書. 全国ダンス・表現運動授業研究会, 2014.12.

④

1. 中村恭子, 宮本乙女, 中村なおみ, 原田純子: 中学校ダンス必修化に対応した授業計画における地域特性と課題. 日本体育学会第65回大会(岩手)予稿集, 297, 2014.8.
2. 宮本乙女, 中村恭子: 体育系大学におけるダンス必修化に対応した指導法カリキュラムの検討「ダンス指導法」の授業を受講した学生の意識の変容を通して. 日本体育学会第65回大会(岩手)予稿集, 317, 2014.8.
3. 中村恭子, 廣澤正孝, 細見修, 山倉文幸, 鈴木利人, 久保田陵一, 吉田理恵, 玉田和美: 精神科リハビリテーションとしてのスポーツ活動の有効性—運動強度や難度

が心理的・生理的ストレス反応に及ぼす影響—. 第57回日本病院・地域精神医学会総会(仙台)抄録集: 90, 2014.11.

〈その他研究活動〉

1. 中村恭子: 発達段階の特徴と指導のポイント総論. 全国ダンス・表現運動授業研究会春季研修会, 講師. 東京, 2014.3.29
2. 中村恭子: 山梨県女子体育連盟ダンス講習会, 講師. 山梨, 2014.5.24
3. 中村恭子: 東京都女子体育連盟ダンス講習会, 講師. 東京, 2014.6.22
4. 中村恭子: 東海大学「武道(柔道)・ダンス講習会」(全国ダンス・表現運動授業研究会夏季研修会)講師. 平塚, 2014.7.26
5. 中村恭子: 埼玉県女子体育連盟夏季体育実技研修会, 講師. 埼玉, 2014.8.20
6. 中村恭子: 群馬県女子体育連盟夏期ダンス講習会, 講師. 群馬, 2014.8.21
7. 中村恭子: 公益財団法人日本体育施設協会 公認スポーツプログラマー養成講習会(専門科目・エアロビクスダンス)講師. 東京, 2014.9.16
8. 長津 芳, 山下昌江, 中村恭子, 馬場俊一: 平成25・26年度中央区教育委員会研究奨励校(阪本小学校)研究発表会・シンポジウム「なぜ今, ダンスなのか—表現運動(リズムダンス)の実践を通して—」シンポジスト. 2014.10.23
9. 中村恭子: 千葉県教育委員会主催千葉県学校ダンス発表会, 作品講評. 千葉, 2013.11.26
10. 中村恭子: 千葉県女子体育連盟研究発表会, 指導助言, 千葉, 2014.12.2
11. 中村恭子: 比較舞踊学会第25回大会 一般研究発表座長. 東京, 2014.12.7
12. 学会誌等の査読: 比較舞踊研究(4編)

中村 充

②

1. Soccer's Role in Slowing the Decline of Visual Functions Caused by Aging: a Study of Young and Middle-aged Subjects. Mitsuru Nakamura, Masafumi Yoshimura, Yukihiro Aoba, Masaki Nakano, Yuu Shimazaki. Human Performance Measurement, Vol.11 1-7.平成26年2月

2. Technical and Tactical Characteristic of Japanese High Level Women Kendo Players: a Comparative Analysis. Mitsuru Nakamura, Yukiko Takami, Masaki Nakano, Kiyoshi Ito, Naoya Maekawa, Masahiro Tamura. Archives of Budo, Vol. 10 3787-92平成26年4月

3. 剣道の正面打撃動作に関する研究—腰の移動に着目して—。大野達哉, 中村 充, 中野雅貴, 廣瀬伸良. 武道学研究 第47巻第2号 pp85-102. 平成26年12月

④
剣道の正面打撃動作に関する研究 —体幹部の動きに着目して—。大野達哉, 中野雅貴, 廣瀬伸良, 中村 充. 日本武道学会第47回大会. 平成26年9月

⑥
千葉県社会体育協会公認指導員講習会「コーチの役割」「指導計画と安全管理」講師 (平成26年8月31日, 千葉県)

原田 睦巳

③
【報告書】
平成25年度大学スポーツ研究活動資源活用事業 活動報告書
順天堂大学スポーツ健康科学部 活動報告書

⑥
【講師等】
足立区子ども元気基金活用事業 トップアスリートによる器械運動教室 講師 (2014.2)

廣瀬 伸良

②
1) Judo Kumi-te Pattern and Technique Effectiveness Shifts after the 2013 International Judo Federation Rule Revision Kiyoshi Ito, Nobuyoshi Hirose¹, Mitsuru Nakamura¹, Naoya Maekawa², Masahiro Tamura³ Archives of Budo: 10(1). 1-9. 2014.

2) AHP を用いた柔道競技力の評価尺度の妥当性 前川直也, 伊藤 潔, 石井兼輔, 越野忠則, 矢崎利加, 田村昌大, 廣瀬伸良

武道学研究第47巻第1号 p1-8. 2014

④
1) 柔道競技における故意的な過呼吸が競技パフォーマンスと疲労改善に及ぼす影響 高田博文, 菅波盛雄, 前川直也, 田村昌大, 日向野奏彬, 廣瀬伸良 武道学研究: 第47巻別冊. p75. 2014

2) 柔道選手における競技力の主観的評価尺度の検討—2013年全日本選抜柔道体重別選手権大会を例に— 前川直也, 石井兼輔, 越野忠則, 矢崎利加, 伊藤 潔, 田村昌大, 金持拓身, 廣瀬伸良 武道学研究: 第47巻別冊. p76. 2014

3) 2013IJF ルール改正に伴う組手戦術行動にみる投技効力の変化について 伊藤 潔, 中村 充, 前川直也, 田村昌大, 廣瀬伸良 武道学研究: 第47巻別冊. p80. 2014

⑥
1) 日本武道学会投稿原著論文 査読2編

山崎 一彦

①
1) 21世紀スポーツ大辞典, 陸上競技, ハードル (競争) 共著, 大修館書店, 26, p1291-129

③
1) 報告: 山崎一彦, 遠藤俊典, 世界ジュニア陸上競技選手権報告, 「第15回世界ジュニア陸上競技選手権ユース大会を戦って」—2020年東京オリンピックに向けた強化育成の課題—, 陸上競技研究, p46-51.

④
1) パネリスト: 山崎一彦, 森丘保典, 長谷川昌弘, 前村公彦 「ジュニア期からシニア期にかけての種目トランスファー」, スプリント学会第25回大会, 日本スプリント学会

⑤
1) 「五輪へ, 一步を踏み出す」2020強化普及オリンピック特別対策プロジェクト概要, 講談社, 月刊陸上競技, 3月号, p46-51

2) 3分間 T & F, 連載101回, 「冬のハードラー・ウ

- ウォーミングアップ①」, ベースボールマガジン社, 陸上競技マガジン, 1月号, p216.
- 3) 3分間 T & F, 連載102回, 「冬期のハードラー・ウォーミングアップ②」, ベースボールマガジン社, 陸上競技マガジン, 2月号.
 - 4) 3分間 T & F, 連載103回, 「スムーズなハードルへの入り方」, ベースボールマガジン社, 陸上競技マガジン, 3月号, p166.
 - 5) 3分間 T & F, 連載104回, 「タイプ別による中期練習計画①」, ベースボールマガジン社, 陸上競技マガジン, 4月号, p145.
 - 6) 3分間 T & F, 連載105回, 「タイプ別による中期練習計画②」, ベースボールマガジン社, 陸上競技マガジン, 5月号, p174.
 - 7) 3分間 T & F, 連載106回, 「記録向上と技術の変容イメージ (男子編)」, ベースボールマガジン社, 陸上競技マガジン, 6月号, p155.
 - 8) 3分間 T & F, 連載107回, 「記録向上と技術の変容イメージ (女子編)」, ベースボールマガジン社, 陸上競技マガジン, 7月号, p231
 - 9) 33分間 T & F, 連載108回, 「力みとリラックスの間をつくる」, ベースボールマガジン社, 陸上競技マガジン, 8月号, p137.
 - 10) 3分間 T & F, 連載109回, 「400 m ハードルのバネをつくる」, ベースボールマガジン社, 陸上競技マガジン, 10月号, p173.
 - 11) 3分間 T & F, 連載110回, 「冬支度の競技会参加とトレーニング」, ベースボールマガジン社, 陸上競技マガジン, 11月号, p161.
 - 12) 3分間 T & F, 連載111回 「400 m 走の能力向上のための走トレーニングの分類」, ベースボールマガジン社, 陸上競技マガジン, 12月号, p136.
 - 13) 第2回ユースオリンピックレポート, 講談社, 月刊陸上競技, 12月号
 - 14) 陸連時報, 第15回世界ジュニア選手権大会報告, ベースボールマガジン社, 陸上競技マガジン, 9月号
 - 15) 陸連時報, 第2回ユースオリンピック大会報告, ベースボールマガジン社, 陸上競技マガジン, 10月号
 - 16) 第2回ユースオリンピック大会総括, ベースボールマガジン社, 陸上競技マガジン, 10月号
 - 2) テレビ解説 (NHK): 「日本陸上競技選手権」全国生放送, 全国録画放送, 6月6, 7, 8日
 - 3) テレビ解説 (NHK): 「全国高校総体」全国生放送, 7月31, 8月1日
 - 4) テレビ解説 (TBS): 「世界ジュニア陸上競技選手権」全国録画放送, 8月
 - 5) テレビ解説 (TBS): 「IAAF コンチネンタルカップ」全国録画放送, 9月
 - 6) テレビ解説 (NHK, TBS) 「アジア大会」全国生放送, 全国録画放送, 9月24日から10月2日
 - 7) テレビ解説 (NHK): 「国民体育大会」, 全国生放送, 10月18, 19日
 - 8) テレビ解説 (東海テレビ): 「日本ジュニア・ユース選手権大会」東海関西エリアおよび全国放送 (録画), 10月
 - 9) 講義: 「競技者として世界へ」, 日本陸上競技連盟主催, オリンピック育成競技者研修合宿, 1月
 - 10) 講演: 「東京五輪へ向けた日本と国際的な動向について」, 日本陸上競技連盟, U19 ジュニア強化研修合宿, 3月
 - 11) 講義: 「2020年に向けて日本陸上界の取り組み」, ナショナルコーチアカデミー, 10月
 - 12) 講義: 「2020年に向けて」, 日本陸上競技連盟主催, 強化育成部オリンピック育成競技者指導者研修会, 11月
 - 13) 講義: IAAF International Course of Athletic Coaching (Level. 3) High Performance Lecturer, 11月18, 19日12時間
 - 14) インタビュー記事: 「東京五輪へ弾み, 育成に課題」, 朝日新聞, 7月29日
 - 15) インタビュー記事: 「陸上 世界と掛け持ち」, 読売新聞, 8月14日
 - 16) インタビュー記事: 「山崎一彦が語る『若手の発掘』を否定する育成論」, 集英社, Web Sportiva, 10月30日
 - 17) インタビュー記事: オリンピック育成競技者指導者研修会, 産経新聞, 朝日新聞, 11月26日
 - 18) インタビュー記事: 「ひと」, 西日本新聞, 12月11日
 - 19) インタビュー記事: 「陸上界の改革」, 西日本スポーツ, 12月11日

⑥その他の研究活動

- 1) テレビ解説 (NHK): 「織田記念陸上」, 中国, 関西, 四国, 北海道放送, 4月29日

准教授

中嶽 誠

②

1. 中嶽 誠, 河合祥雄, 広沢正孝, 櫻庭景植, 小熊英

伸, 島内憲夫, 鈴木美奈子, 田辺 正, 鈴木大地, 吉村雅文, 青葉幸洋, 山田 満, 佐久間和彦, 越川一紀, 仲村 明, 青木和浩, 山崎一彦, 鯉川なつえ, 高梨雄太, 長門俊介, 平尾智美, 加納 實, 原田睦巳, 冨田洋之, 濱野光之, 菅波盛雄, 廣瀬伸良, 中村 充, 砂見綾香, 佐々木和登, 川野 因, 鈴木良雄, JNASグループ. 運動部に所属する大学生の栄養素摂取の実態. 調理食品と技術: 日本調理食品研究会誌. 20(3): 105-111, 2014年12月

④

1. 中嶽 誠, 木藤友規. バスケットボール競技におけるシュート成功確率と身長の関係. 日本体育学会第65回大会予稿集 p278-279. 2014年8月.

⑥

1. 長登 健, 下村義夫, 牛尾直行, 中嶽 誠, 渡邊貴裕, 荻原朋子, 津留崎明子. 「教職の順天堂」を進展させるための教育課程の検証. 順天堂大学学長教育改善プロジェクト. 2014年9月,
2. 中嶽 誠, 櫻庭景植, 丸山麻子, 青木和浩, 山崎紀春, 鈴木良雄, 小熊伸英. バスケットボール選手の体力と骨強度・栄養素摂取量の関係, 順天堂大学学内共同研究. 2014年7月.
3. 長登 健, 牛尾直行, 中嶽誠, 渡邊貴裕, 荻原朋子. 教員養成に関する教育課程体系化プロジェクト. 順天堂大学学長教育改善プロジェクト. 2014年3月
4. 公開講座「高校バスケットボール公式大会に向けたコーチミーティング」. 順天堂大学. 2014年11月.
5. 成田市小学校間交流ミニバスケットボール大会. 2014年7月.
6. 平成26年度千葉県指名強化審判員強化講習会. 2014年6月.
7. 第40回順天堂大学笠原杯高等学校男女バスケットボール教室. 2014年3月.
8. 船橋小鳩幼稚園バスケットボール交流会. 2014年1月.

仲村 明

③

1. 中嶽 誠, 河合祥雄, 広沢正孝, 櫻庭景植, 小熊英伸, 島内憲夫, 鈴木美奈子, 田辺 正, 鈴木大地, 吉村雅文, 青葉幸洋, 山田 満, 佐久間和彦, 越川一紀, 仲村 明, 青木和浩, 山崎一彦, 鯉川なつえ, 高梨雄太, 長門俊介, 平尾智美, 加納實, 原田睦巳, 冨田洋之, 濱野光之, 菅波盛雄, 廣瀬伸良, 中村充, 砂見綾香, 佐々木和登, 川野因, 鈴木良雄, JNASグループ, 運動部に所属する大学生の栄養素摂取の実態, 調理食品と技術, 第20巻第3号, 2014

④

1. 山田美紀, 山田 快, 沖 和紗, 仲村 明, 広沢正孝. 大学男子駅伝選手の気分及びストレスと主観的達成度の関連性, 日本健康心理学会第27回大会, 2014.11

助教

青葉 幸洋

①

1. Mitsuru NAKAMURA, Masafumi YOSHIMURA, Yukihiro AOBA, Masaki NAKANO and Yuu SHIMAZAKI. The Role of Soccer in Slowing the Decline of Visual Function Caused by Aging: a Study of Young and Middle-aged Subjects. Human Performance Measurement, Vol.11: 1-7 (2014)

④

1. 綾部誠也, 石崎聡之, 鈴木宏哉, 青葉幸洋, 吉村雅文. クラブチーム所属小中学生における夕食摂取のタイミングが身体組成を介したサッカー競技に果たす役割. 第12回日本フットボール学会, 2014年8月
2. 河村剛光, 窪田敦之, 青葉幸洋, 中田 学, 青木和浩. 速度と球種の異なる投球による打撃練習及び見るトレーニングが打撃能力と視覚機能に及ぼす影響. 第27回日本トレーニング科学学会大会, 2014年11月

⑥その他

公開講座: 2014年11月23日(日) 親子サッカー教室

荻原 朋子

②

1. 荻原朋子, 岡出美則, 須甲理生, 四方田健二 (2014) 中学校体育授業における素朴概念修正のための学習指導方略の検討: バレーボール单元におけるオーバーハンドパスを対象として. 体育学研究, 59(2); p. 639-652. (早期公開)
2. 今関豊一, 荻原朋子, 青木和浩, 松橋義巳, 酒匂宙夢, 棗 寿喜 (2014) 体育科学習内容を明確にした小学校持久走授業の検討. 陸上競技学会誌, 12; p. 55-69.

④

1. Tomoko Ogiwara, Yoshinori Okade, Riki Suko, Kenji Yomoda (February, 2014) The relation between naive conception and performance in an overhand volleyball pass skill among junior high school students in PE classes, AIESEP World Congress 2014, Auckland, New Zealand.
2. 荻原朋子 (2014年8月) 仲間学習モデルの体育授業への適用過程とその成果. 体育科教育学における教授・学習指導論の未来” —学習指導モデルの観点から. 日本体育学会体育科教育学専門領域シンポジウム. 第65回大会予稿集, 岩手大学: p. 54.

⑤

1. 荻原朋子: ネット型ゲームにおける“ボールを持たないときの動き”とは. 体育科教育 62(2), 大修館書店: 76-77, 2014.

⑥

研究会講師

1. 八千代市西高津小学校体育科研修会講師 (2014年度)
2. 杉並区立方南小学校体育科研究会講師 (2014年度)
3. 横須賀市体育実技研修会講師 (2014年5月)
4. 文京区立関口台町小学校体育授業研究会講師 (2014年10月)
5. 杉並区立桃井第一小学校体育授業研究会講師 (2014年10月)

学会誌等の査読

1. スポーツ教育学研究 1本
2. 体育授業研究 1本

高梨 雄太

⑥

講座: 若手教員から学ぶスポーツ科学体験〜出力・入力・メンタル〜 河村剛光, 窪田敦之, 町田萌, 高梨雄太平成26年度順天堂大学公開講座 2014年11月1日

講演: ジュニア期における円盤投の強化〜円盤投におけるトレーニングの基本的な考え方〜 日本陸上競技連盟ジュニア強化合宿関東地区 2014年12月23日

武田 剛

③

武田 剛, 全国学生選抜合宿報告 月刊水泳11月号 日本水泳連盟 p58, 2014

④

Sakai S., Takeda T., Tsubakimoto S., Takagi H. Calculation of lower limbs joint torque of Grab and Track starts in competitive swimming. Biomechanics and Medicine in Swimming 2014 Canberra, Australian Institute of Sport, April 28 to May 2, 2014

酒井 紳, 佐藤智俊, 武田 剛, 椿本昇三, 高木英樹, トラックススタートにおけるバックプレートの位置がスタートパフォーマンスに与える影響 日本水泳・水中運動学会2014年次大会 演題番号 O5-5 愛知: 愛知学院大学 日進キャンパス 2014年11月15日

富田 洋之

②

「運動部に所属する大学生の栄養素摂取の実態」

中嶽 誠, 河合祥雄, 広沢正孝, 櫻庭景植, 小熊英伸, 島内憲夫, 鈴木美奈子, 田辺 正, 鈴木大地, 吉村雅文, 青葉幸洋, 山田 満, 佐久間和彦, 越川一紀, 仲村 明, 青木和浩, 山崎一彦, 鯉川なつえ, 高梨雄太, 長門俊介, 平尾智美, 加納 實, 原田睦巳, 富田洋之, 濱野光之, 菅波盛雄, 廣瀬伸良, 中村 充, 砂見綾香, 佐々木和登, 川野 因, 鈴木良雄, JNASグループ

日本調理食品研究会誌. 20(3): 105-111, 2014

「児童の学力, 体力, 身体組成の向上に寄与する生活習慣

と活動量を解明するコホート研究」研究課題番号：
26350844

(科研費基盤研究 (C)：平成26年4月～平成29年3月)

④

日本体操競技・器械運動学会

シンポジウム

「東京オリンピック50周年記念

団体金メダリストから学ぶ体操ニッポンの将来」

⑤

- NHK 番組名「体育ノ介」
- ボートレース ゲスト出演
- 国立競技場 炬火ランナー
- 読売新聞 富田洋之の眼
- 第一三共 「eヘルシーレシピ」
- アサヒビール主催イベント ゲスト出演
- スポルティールバ
- 岩手宮古マラソン ゲスト出演

⑥

- 読売新聞主催 インターハイ前夜祭講演
- 東郷体操お披露目会

その他

- ワールドカップ東京大会 国際技術委員
- ユースオリンピック競技大会 国際技術員
- 世界体操競技選手権大会 国際技術委員
- 豊田国際体操競技大会 大会審判長

長門 俊介

③

1. 中嶽 誠, 河合祥雄, 広沢正孝, 櫻庭景植, 小熊英伸, 島内憲夫, 鈴木美奈子, 田辺正, 鈴木大地, 吉村雅文, 青葉幸洋, 山田 満, 佐久間和彦, 越川一紀, 仲村明, 青木和浩, 山崎一彦, 鯉川なつえ, 高梨雄太, 長門俊介, 平尾智美, 加納 實, 原田睦巳, 富田洋之, 濱野光之, 菅波盛雄, 廣瀬伸良, 中村 充, 妙見綾香, 佐々木和登, 川野 因, 鈴木良雄, JNASグループ, 運動部に所属する大学生の栄養素摂取の実態, 調理食品と技術, 第20巻第3号, 2014

中丸 信吾

④

1. 梁川悦美, 松原好子, 桐川敦子, 西田ますみ, 櫻木真智子, 太田よし美, 中丸信吾, 木村博人. 幼児の投動作と運動能力の関連. 日本保育学会第67回大会, 2014年6月
2. 中丸信吾, 菅波盛雄. 大学スキー実習における参加者の疲労状態. 日本野外教育学会第17回大会, 2014年6月
3. 青木和浩, 河村剛光, 中丸信吾, 渡辺圭佑. 小学生の跳躍能力とバウンディングの関係. 日本陸上競技学会第13回大会, 2014年11月
4. 中丸信吾, 菅波盛雄. 自覚疲労およびたるさ・痛み部位からみた大学スキー実習中における参加者の疲労状態. 日本レジャーレクリエーション学会第44回大会, 2014年12月

⑥

1. 千葉市消防学校初任科教育講師「ストレッチング・体ほぐしの運動」, 2014年4月
2. JOC エリートアカデミーキャンプ講師, 2014年5月
3. 市川市教育委員会社会教育課 今からできる認知症予防「すっきり元気塾」講師, 2014年9月
4. 千葉県社会体育公認指導員等養成講習会講師「対象に合わせたスポーツ指導」, 2014年9月
5. 順天堂大学スポーツ健康科学部公開講座講師「親子でスポーツを体験しよう!(レクリエーション)」, 2014年11月
6. 順天堂大学スポーツ健康科学部公開講座講師「レクリエーションゲームを通して交流を深めよう!」, 2014年11月

町田 萌

②

査読付き論文

1. 内田遼介・町田 萌・土屋裕睦・釘原直樹. (2014). スポーツ集合的効力感尺度の改訂・邦訳と構成概念妥当性の検討, 体育学研究, 59, 841-854

④

1. 町田 萌・荒木香織・木田京子 (2014年4月). スポーツ指導者のコーチング効力感と環境および個人要因の関係. 招待発表. 笹川スポーツ財団研究奨励の会, 東京.
2. Machida, M., Araki, K., & Kida, K. (August, 2014). How can female and male coaches be developed?: Coaching education in Japan. A paper presented in a symposium K. Araki et al. "What does it mean to educate coaches?: International perspectives". The 7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology International Congress in Tokyo, Japan.
3. 町田 萌 (2014年8月). 体育・スポーツにおけるリーダーシップの心理学. キーノート講演, 日本体育学会, 岩手県盛岡市
4. 涌井佐和子・丸山麻子・町田 萌・中村亜紀・亀本佳世子・須永美歌子 (2014年9月). 大学生女子アスリートにおける月経周期と心理運動パフォーマンスとの関連. 口頭発表, 日本体力医学会, 長崎県長崎市.

⑥

1. 文部科学省委託事業女性アスリート育成・支援プロジェクト, 日本体育大学「月経周期を考慮したコンディショニング法」委員 (2013年～現在)
2. トヨタ自動車アルバルク東京, スポーツ心理学コンサルタント (2013年～現在)
3. 千葉県社会体育公認指導員養成講習会, 「スポーツ心理学」講師 (2014年9月)
4. U20男子日本代表ラグビー, スポーツ心理学コンサルタント (2014年～現在)

助手

中田 学

②

中田 学「バレーボールにおける注視点の特性」順天堂大学大学院修士論文.

平成27年3月

⑥

- 毎週火曜日「バレーボール教室」
幼児, 小学生, 中学生, 成人を対象にバレーボール教室を開催
- JU ジュニア・バレーボールチーム
小学生を対象に週二日～四日, 活動を実施

中野 雅貴

②

1. Mitsuru Nakamura, Masafumi Yoshimura, Yukihiro Aoba, Masaki Nakano, Yuu Shimazaki. The Role of Soccer in Slowing the Decline of Visual Function Caused by Aging: a Study of Young and Middle-aged Subjects. Archives of Budo, Vol 10 3787-3792.
2. Mitsuru Nakamura, Yukiko Takami, Masaki Nakano, Kiyoshi Ito, Naoya Maekawa, Masahiro Tamura. Technical and tactical characteristic of Japanese high level women kendo players: comparative analysis. Archives of Budo, Vol 10 3787-3792.

④

1. 大野達哉, 中村充, 中野雅貴, 広瀬伸良. 剣道の正面打撃動作に関する研究—腰の移動に着目して—. 日本武道学会第47回大会 武道学研究 第47巻第2号

平尾 朋美

④

平尾朋美, 鯉川なつえ, 窪麻由美, 大沢亜紀, 桜庭景植. 大学女子陸上競技者における種目別骨密度と月経および身体組成との関連. 日本陸上競技学会第13回大会, 2014.11.

星 陽輔

⑥

講師派遣依頼:

印南まつり『佐倉夢講座』「体操」佐倉市立印南小学校 (2014.11.15)

実演指導:

NPO ニッポンランナーズ体操競技体験 (2014.7.19)

船橋市立高根東小学校 (2014.9.16)

〔スポーツマネジメント学科〕

教授

小笠原悦子

②

1. Capranica, L., Piacentini, M. F., Halson, S., Myburgh,

K. H., Ogasawara, E., & Millard-Stafford, M. (2013). The gender gap in sport performance: equity influences equality. *Int J Sports Physiol Perform*, 8, 99-103.

④

1. 新井彬子・小笠原悦子・鯉川なつえ・伊藤真紀・井上好 (2014). エリートスポーツにおける女性コーチの労働環境に関する報告: 米国スタンフォード大学におけるケーススタディ. スポーツマネジメント学会第7回大会号, p. 54.

2. 片山洋平・小笠原悦子・伊藤央二・伊藤真紀・新井彬子 (2014). スポーツに関する学生支援の現状. スポーツマネジメント学会第7回大会号, p. 47.

3. Ogasawara, E. (2014). Asian Network on Women in Sport How Should We Collaborate to Advance Women in Sport by Using Knowledge of Sport Management? 2014 the 10th Asia Association for Sport Management Conference Proceedings, Asian Summit Forum of Sport Management, Kaohsiung, Taiwan, June 25. 2014. pp. 73-81.

4. Ito, M., Ogasawara, E. (2014). Why Do Women Choose to Work in the Professional Baseball? Book of Abstract World Association for Sport Management Inaugural Conference, Madrid, Spain, October 3 rd. 2014. p. 116.

5. Watanabe, N., Ogasawara, E., Machida, M., and Ito, M. (2014). Team Leadership and Team Competency in Collegiate Women's Volleyball Teams. 2014 the 10 the Asia Association for Sport Management Conference Proceedings, Kaohsiung, Taiwan, June 24. 2014.

⑥

1. D'Amico, R. L. D., & 小笠原悦子. (2014). 異文化を知り, 女性を支援すること (ダンスの力をすべての人へ: 60周年記念大会特集号). *女子体育*, 57(12), pp. 6-11.

2. 小笠原悦子 (2014)女性アスリートの育成と支援, その課題. 放送大学. 特別講義. 6月1日, 8月22日, 10月5日放送.

北村 薫

①

Naoto Shoji, Yasuyuki Hochi, Hirotsugu Fujii, Hiromitsu Moriguchi, Takahiro Nakayama, Motoki Mizuno, Kaoru Kitamura, "A Study of the Organizational Support for Building Resilience of the Fitness Club Employees", Peter Vink (Ed.) *Advances in Social and Organizational Factors*, AHFE Conference, 2014, pp. 425-432.

②

山田 快, 荒井弘和, 中澤 史, 川田裕次郎, 上村 明, 北村 薫, 広沢正孝. スポーツチームの一体感と組織風土との関係性—コミュニケーションを起点とした一体感向上へのアプローチ方法の検討—. *スポーツ産業学研究* Vol 24, No 2: 113-127, 2014, 9

④

1) 国際学会

● Yasuyuki Hochi, Motoki Mizuno, Mai Kitamura, Kaoru Kitamura. Effect of Career Support Program "Self-Analysis Seminar" on the Self-Efficacy of Career Decision Making among Japanese University Students in Sport Science. *Proceedings of the 5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics AHFE 2014*, USB, Jagiellonian University, Krakow, Poland, Jul., 2014.

● Yasuyuki Hochi, Motoki Mizuno, Takahiro Nakayama, Mai Kitamura, Riyako Honda, Kaoru Kitamura. A Study on the Effects of Team Building for University Baseball Team in Japan: Focused on Morale and Belief in Cooperation. *The 7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology International Congress in Tokyo*, CD-ROM, National Olympic Memorial Youth center, Japan, Aug., 2014.

2) 国内学会

● 庄司直人, 本多里也子, 森口博充, 北村茉衣, 芳地泰幸, 水野基樹, 北村 薫. 看護師に対するチームビルディングの可能性の検討—内省報告を分析対象とした定性的調査から—. *第49回人類動態学会全国大会『大会プログラム・抄録』* 42-43, 2014.6

● 伊藤央二, 山口志郎, 岡安功, 北村 薫. 日本とカナダ間における青年の野外スポーツの参加動機と阻害要因の類似・相違点について. *日本体育学会第65回大会*. 2014.8

● 東明有美, 野川春夫, 北村 薫, 上代圭子. 日本における女子サッカーの言説分析—JFAの記事分析と女子サッカー選手の経験に着目して—. *日本体育学会第65回大会*. 2014.8

● 庄司直人, 森口博充, 本多里也子, 北村茉衣, 水野基樹, 北村薫. フィットネスクラブにおけるレジリエンス支援のためのガイドライン作成の取り組み. *産業保健人間工学会第19回大会『産業保健人間工学研究』*, vol16, suppl. 75-79, 2014.11

● 松川勇樹, 北村薫, 岩田大祐, 押見大地, 原田宗彦. 国内スポーツ産業の市場規模の推計結果: スポーツ産業活性化研究会による研究結果報告. *日本スポーツマネジメント学会第7回大会*. 2014.11

⑥

科学研究費申請課題名:

〈継続採択〉

科学研究費基盤研究(C)(一般)児童生徒の適応支援と発達支援を目指した身体活動プログラムおよび指導指針の作成, 代表, 2012年~2014年: 3年合計533万円, 課題番号 24500756

黒須 充

①

1) Kurosu M. *Chapter 15 Sport Development in Japan*, in Hallmann, Kirstin & Petry, Karen (eds.) *Comparative Sport Development*, Springer Science+Business Media New York; 193-210, 2014年1月.

2) 黒須 充(分担執筆)「第7章 スポーツクラブⅣ. 総合型地域スポーツクラブ」笹川スポーツ財団編『スポーツ白書2014~スポーツの使命と可能性~』, 178-191, 2014年2月.

3) クリストフ・ブロイアー・黒須 充編著『ドイツに学ぶ 地方自治体のスポーツ政策とクラブ』創文企画, 全208頁, 2014年3月.

4) 黒須 充・水上博司編著『スポーツ・コモンズ~総合型地域スポーツクラブの近未来像』創文企画, 全200頁, 2014年3月.

④

1) 黒須 充. 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催と被災地支援活動. *日本スポーツ社会学会第23回大会*, 北海道大学学術交流会館, 2014年3月22-23日.

2) 安田俊広, 黒須 充. 介護予防運動教室参加者の運動

行動と体力との関係. 第69回日本体力医学会大会, 長崎大学文教キャンパス, 2014年9月19-21日.

⑤

- 1) 黒須 充. ドイツと日本におけるスポーツクラブの未来セミナー, クラブネッツブックレットシリーズ①, 認定NPO法人クラブネッツ, 1-24, 2014年3月.
- 2) 黒須 充. ドイツ研修事業報告書, 東北サッカー協会, 6-28, 2014年4月.
- 3) 黒須 充. 認定スポーツNPOガイドブック, クラブネッツブックレットシリーズ②, 認定NPO法人クラブネッツ, 1-24, 2014年5月.
- 4) 黒須 充. 被災地に寄り添う五輪, 読売新聞, 2014年6月17日(火曜日)
- 5) 黒須 充. ドイツにおける地域のスポーツクラブの先進事例, 健康づくり2014年12月号, 健康・体力づくり事業財団, 15-17.

⑥

【講演・シンポジウム】

- 1) 黒須 充. クラブを核とした地域づくり. 第3回夢あふれる野津原フォーラム, 大分市野津原公民館, 2014年1月26日.
- 2) 黒須 充. ドイツと日本におけるスポーツクラブの未来. ドイツセミナー, 日本大学百周年記念館国際会議場, 2014年3月15日.
- 3) 黒須 充. ふくしまの子供たち～大震災以降の健康問題とスポーツ支援～, 第54回順天堂スポーツ医学研究会 順天堂大学9号館, 2014年3月16日.
- 4) 黒須 充. 認定NPO法人取得の意義と課題, 認定NPO法人取得勉強会(入門編), 郡山市労働福祉会館, 2014年6月13日.
- 5) 黒須 充. 「新しい公共」を創造する総合型地域スポーツクラブ, 香川県三豊市市長特別研修, 三豊市高瀬町農村環境改善センター, 2014年7月29日.
- 6) 黒須 充. 総合型地域スポーツクラブの現状と今後の展望, トヨタ自動車役員研修, トヨタ東京本社, 2014年7月30日.
- 7) 黒須 充. 総合型SCの変わらぬ使命と無限の可能性, 福島県第2回総合型地域スポーツクラブフォローアップセミナー, 郡山ユラックス熱海, 2014年10月5日.

【学会誌等の査読】

- 1) 体育学研究
- 2) スポーツ社会学研究

須藤 路子

②

Mochizuki, Akito Azumane, Sudo, Michiko Mochizuki, Itoh, Kenji, and Kirino, Eiji (2014) Brain activation associated with motor imagery of coordination exercises and social abilities. *European Journal of Sport Science*, 14(7), 671-677. DOI: 10.1080/17461391.2014.893019

Sudo, Michiko Mochizuki, Mochizuki, Akito Azumane, Itoh, Kenji, and Kirino, Eiji (2014) Is there an association of L2 proficiency with social and physical abilities? Effects of various types of abilities on English proficiency. *Journal of the Phonetic Society of Japan*, 18(2), 1-9.

伊藤憲治・須藤路子・望月明人・桐野衛二(2014)「運動・認知機能の連関解析」『21世紀科学と人間シンポジウム論文誌』6, 21-26.

④

望月明人・須藤路子・桐野衛二・伊藤憲治(2014)「コーディネーション運動と社会性および脳活性の相互関係」『体力科学』63(6), 659.

⑥

日本音声学会学会誌 *Journal of the Phonetic Society of Japan* の査読

先任准教授

大野 早苗

④

Ohno, Sanae (2014.6) How Writing Book Reports Influences the Way Japanese Students Feel about Writing. *International Society for Language Studies Official 2014 Conference Program*, p. 11 http://www.isls.co/ISLS_2014_Extended_Program_Final.pdf

大野早苗(2014.7)「学習者の『書くこと』についてのライフストーリーから見えてくること—中国人留学生の場合—」シドニー日本語教育国際研究大会 <https://icjle2014.arts.unsw.edu.au/jp/program> 於 シドニー工科大学

大野早苗・木藤友規・廣津信義・松山 毅(2014.8)「大

学1年生を対象とした学習についてのレディネス調査—順天堂大学スポーツ健康科学部の場合—『日本リメディアル教育学会第10回全国大会発表予稿集』pp. 148-149 於東京電機大学

大野早苗 (2014.9) 「入学直後の集中講義における書くことの指導の効果と課題—順天堂大学スポーツ健康科学部の場合—『初年次教育学会第7回大会発表要旨集—初年次教育における自己表現：表現から実現へ—』pp. 78-79 於帝塚山大学

- ⑥ 『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』第6号 日本語教育学会アカデミック・ジャパニーズ・グループアドバイザー協力者 (2014.6)
朝日カルチャーセンター日本語教師養成講座講師 (文法) (2012.4-6)
朝日カルチャーセンター日本語教育能力検定試験対策講座講師 (日本語の構造) (2012.9)

金子 育世

- ③ 金子育世 (2014) 「英語のライティングとスピーキングにおける感情表現—学習者と母語話者の比較—」『科学研究費助成事業研究成果報告書』1-5.

- ④ Ikuyo Kaneko (2014). The acquisition of written expressions of emotion by Japanese learners of English. *AILA World Congress 2014 Abstract Book*, 242-243.

- ⑥ 【講演】
金子育世 (2014) 「日本人英語学習者による感情表現～第二言語習得の観点から～」第12回愛媛大学英語教育改革セミナー (招待講演)

- 【査読】
情報文化論

神原 直幸

- ② Park E. J, Kambara N, Evaluating TV Rights Fees for the Olympic and the World Cup Based on Viewing Levels: A Comparative Study between South Korea and Japan Intl. Res. J. Appl. Basic Sci. (IRJABS). in press

工藤 康宏

- ①
1. 長ヶ原誠・小倉和夫・工藤康宏・鈴木知幸・高峰修・彦治佳・仲野隆士・師岡文男・渡邊さおり：第9章スポーツイベント，笹川スポーツ財団編：スポーツ白書2014スポーツの使命と可能性，220-243，2014年2月28日。
 2. 工藤康宏：第22章「スポーツツーリズム」，原田宗彦編著：スポーツ産業論第5版第5刷，杏林書院，280-291，2014年4月10日。

- ②
1. 工藤康宏・舟木泰世・梶原 健・野川春夫：「プロスポーツチームとまちづくりに関する研究—チームと拠点し地域住民の共同参画型プロジェクトの開発と展開—」SSF スポーツ政策研究第3巻1号 2013年度 笹川スポーツ研究助成 研究成果報告書，98-107，笹川スポーツ財団，2014年4月1日。

- ③
1. 文部科学省委託調査トップアスリートの強化・研究活動拠点の在り方に関する調査研究 (パラリンピック競技における選手，指導者及び競技団体のニーズ調査並びに諸外国の情報収集業務等) 山口泰雄 (統括責任者) 中森邦男・桜井誠一・山口志郎・工藤康宏 他 (アドバイザー委員)，2014年10月31日

- ④
1. 飯田速人・工藤康宏 「スポーツイベント参加者に与えるクチコミの影響」日本スポーツ産業学会リサーチカンファレンス2014，2014年2月11日
 2. 沼澤かすみ・工藤康宏 「マラソン大会参加者の大会参加決定理由・満足度と地域ブランドの関係～県内参加者

- と県外参加者に着目して～」日本スポーツ産業学会リサーチカンファレンス2014, 2014年2月11日
3. 平山なつみ・工藤康宏「地域にプロスポーツチームをもつ大学生を対象とした試合観戦の意識調査～プロバスケットボールチームに着目して～」日本スポーツ産業学会リサーチカンファレンス2014, 2014年2月11日
 4. 広津万里菜・工藤康宏「日本におけるスポーツメディアの男女の相違～新聞報道におけるロンドンオリンピック特設欄に着目して～」日本スポーツ産業学会リサーチカンファレンス2014, 2014年2月11日
 5. 宮澤奈都輝・工藤康宏「大学サッカーの観戦動機と観戦者数について～観戦経験がない人に着目して～」日本スポーツ産業学会リサーチカンファレンス2014, 2014年2月11日
 6. 山田侑美・工藤康宏「大学の社会貢献活動と地域との連携～スポーツ健康系学部・学科のある大学が所在する地域に焦点をあてて～」日本スポーツ産業学会リサーチカンファレンス2014, 2014年2月11日
 7. 渡邊真帆・工藤康宏「インターネット利用状況とはじめの関係について」日本スポーツ産業学会リサーチカンファレンス2014, 2014年2月11日
 8. 工藤康宏・野川春夫「プロスポーツの拠点地域における試合観戦者と住民のソーシャルキャピタルの比較」日本体育学会第65回大会 岩手大学, 2014年8月27日
 9. 柴崎雄介・新関彩嘉・馬場秀二・村松玲奈・渡辺美紗・吉田隼人・工藤康宏「中高年男性への身だしなみ意識調査～サッカーおじさんを対象として～」日本生涯スポーツ学会第16回大会, 大阪体育大学, 2014年10月12日
 10. 池上純也・小澤珠実・川邊晃・子安秀明・小柳美沙子・原貴信・渡辺淳太郎・工藤康宏「中高年サッカー愛好者の子育て意識調査～サッカーおじさんを対象として～」日本生涯スポーツ学会第16回大会, 大阪体育大学, 2014年10月12日
 11. 新藤一晴・山本浩佑・李ソンミン・金鐘・工藤康宏・野川春夫「プロサッカークラブのサービスクオリティに関する日韓比較研究～観戦頻度別に着目して～」日本生涯スポーツ学会第16回大会, 大阪体育大学, 2014年10月12日
 12. 高橋季絵・山本浩佑・渡辺泰弘・工藤康宏・野川春夫「地域スポーツクラブに対する子育て世代の意識・活動実態」日本生涯スポーツ学会第16回大会, 大阪体育大学, 2014年10月12日
 13. Yasuhiro KUDO, Haruo NOGAWA, Ken KAJIWARA, Professional Sport Team and Community development. -A focus on community members' social capital-, The North American Society for the Sociology Sport 2014 Annual Conference Meeting, Portland, OR, 2014. Nov. 6.
- ⑥
1. 特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興機構第34回ヘルスツーリズムセミナー講師「ウォーキングイベントと地域活性化～スポーツツーリストと住民のソーシャルキャピタル～」JTBビル大ホール, 2014年7月18日
 2. 地域デザイン学会関東・東海地域部会第5回研究会講師『ニューツーリズムと地域活性化のコンテクスト転換～ヘルス, スポーツ, 景観ビジネスとしての可能性を探る～』「スポーツツーリズムの新潮流と地域活性化」東海大学代々木キャンパス, 2014年12月13日

水野 基樹

1. 田中菊子編著, 光川眞壽, 澁谷智久, 芳地泰幸, 水野基樹, 今野亮著『スポーツ科学概論—スポーツ・健康運動指導の基礎知識—』創成社, 東京, 2014年3月
水野基樹: 第5章「スポーツマネジメント (123-147頁)」を執筆
2. Naoto Shoji, Yasuyuki Hochi, Hirotsugu Fujii, Hiromitsu Moriguchi, Takahiro Nakayama, Motoki Mizuno, Kaoru Kitamura, Peter Vink (Ed.) “A Study of the Organizational Support for Building Resilience of the Fitness Club Employees”, Advances in Social and Organizational Factors, AHFE Conference, pp. 425-432.

3. Yasuyuki Yamada, Yukari Kinooka, Takeshi Ebara, Motoki Mizuno, Masataka Hirose, Michihiro Kamijima, Peter Vink (Ed.) “Descriptive Evidence of the Work-Family Compensation among Japanese Midwives: Using the Multiple Role Map Program”, *Advances in Social and Organizational Factors*, AHFE Conference, pp. 420-424.
 4. Yujiro Kawata Akari Kamimura, Shino Izutsu, Kai Yamada, Masahiro Iizima, Motoki Mizuno, Masataka Hirose, Peter Vink (Ed.) “Relative age effect in physical and psychological development in young Japanese children and associated problems for kindergarten teachers”, *Advances in Social and Organizational Factors*, AHFE Conference, pp. 414-419.
- ③
1. 科学研究費助成事業研究 (研究課題番号 : 23530447) 「チーム医療の実現を目指した看護組織のチームビルディングに関する実践的研究」成果報告書
 2. 「平成26年度 産業イベント調査報告書 (八千代どーんと祭り来場者アンケート調査報告書)」2014年11月
 3. 「八千代市まち興しに関するアンケート調査結果報告書 (どーんと祭り : 簡易版)」2014年10月
- ④
1. 「Effect of Career Support Program “Self-Analysis Seminar” on the Self-Efficacy of Career Decision Making among Japanese University Students in Sport Science」Proceedings of the 5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics AHFE 2014, USB, Jagiellonian University, Kraków, Poland, Jul., 2014. (査読あり)
Authors: Yasuyuki Hochi, Motoki Mizuno, Mai Kitamura, Kaoru Kitamura
 2. 「A Study of the Organizational Support for Building Resilience of the Fitness Club Employees」Proceedings of the 5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics AHFE 2014, USB, Jagiellonian University, Kraków, Poland, Jul., 2014. (査読あり)
Authors: Naoto Shoji, Yasuyuki Hochi, Hirotsugu Fujii, Hiromitsu Moriguchi, Takahiro Nakayama, Motoki Mizuno, Kaoru Kitamura
 3. 「The relationship between career decision making self-efficacy and social support among Junior in University」Proceedings of the 5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics AHFE 2014, USB, Jagiellonian University, Kraków, Poland, Jul., 2014. (査読あり)
Authors: Mai Kitamura, Motoki Mizuno
 4. 「Descriptive Evidence of the Work-Family Compensation among Japanese Midwives: Using the Multiple Role Map Program」Proceedings of the 5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics AHFE 2014, USB, Jagiellonian University, Kraków, Poland, Jul., 2014. (査読あり)
Authors: Yasuyuki Yamada, Yukari Kinooka, Takeshi Ebara, Motoki Mizuno, Masataka Hirose, and Michihiro Kamijima
 5. 「Relative age effect in physical and psychological development in young Japanese children and associated problems for kindergarten teachers」Proceedings of the 5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics AHFE 2014, USB, Jagiellonian University, Kraków, Poland, Jul., 2014. (査読あり)
Authors: Yujiro Kawata Akari Kamimura, Shino Izutsu, Kai Yamada, Masahiro Iizima, Motoki Mizuno, Masataka Hirose
 6. 「A Study on the Effects of Team Building for University Baseball Team in Japan: Focused on Morale and Belief in Cooperation」The 7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology International Congress in Tokyo, CD-ROM, National Olympic Memorial Youth center, Japan, Aug., 2014. (査読あり)
Authors: Yasuyuki Hochi, Motoki Mizuno, Takahiro Nakayama, Mai Kitamura, Riyako Honda, Kaoru Kitamura
 7. 「A study on Career Decision Making Self-Efficacy and Social Support among University Students in Sport Science」The 7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology International Congress in Tokyo, CD-ROM, National Olympic Memorial Youth center, Japan, Aug., 2014. (査読あり)
Authors: Mai Kitamura, Motoki Mizuno, Yasuyuki Hochi

8. 「Relationship between Burnout Syndrome and Social Support in University Swimmers in Japan」The 7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology International Congress in Tokyo, CD-ROM, National Olympic Memorial Youth center, Japan, Aug., 2014. (査読あり)
Authors: Riyako Honda, Motoki Mizuno, Yasuyuki Hocht
9. 「Key points of procedures of Multiple Role Map program toward Japanese nurses: Differentiation between individual and group approaches」The 10th Pan-Pacific conference on Occupational Ergonomics, Proceedings of Abstract, p56, Tokyo Metropolitan University, Japan, Aug., 2014. (査読あり)
Authors: Yasuyuki Yamada, Yasuyuki Hocht, Motoki Mizuno
10. 「A Study on Followership of University Athletes: The Narrative Approach to the Head coaches」The 10th Pan-Pacific conference on Occupational Ergonomics, Proceedings of Abstract, p50, Tokyo Metropolitan University, Japan, Aug., 2014 (査読あり)
Authors: Kentaro Inaba, Yasuyuki Hocht, Motoki Mizuno
11. 「Resilience, psychological stressors, and stress responses in Japanese university athletes」The 10th Pan-Pacific conference on Occupational Ergonomics, Proceedings of Abstract, p29, Tokyo Metropolitan University, Japan, Aug., 2014 (査読あり)
Authors: Yujiro Kawata, Masataka Hirose, Akari Kamimura, Kai Yamada, Takanori Kato, Kazusa Oki, Sawako Wakui, Shino Izutsu, Motoki Mizuno
12. 「看護師に対するチームビルディングの可能性の検討—内省報告を分析対象とした定性的調査から—」第49回人類労働学会全国大会『大会プログラム・抄録』42-42頁, 2014年6月(於:東京農工大学, 府中キャンパス)
研究者: 庄司直人, 本多里也子, 森口博充, 北村茉衣, 芳地泰幸, 水野基樹, 北村 薫
13. 「中山間地域における独居高齢者の生きがいと繋がりづくりに関する研究—仁淀川町「清流クラブ池川」の取り組みを中心に—」産業保健人間工学会第19回大会『産業保健人間工学研究』第16巻, suppl. 53-58頁, 2014年11月(於:産業医科大学)
- 研究者: 芳地泰幸, 若藤美紀, 稲田俊治, 水野基樹
14. 「組織の活性化を目的としたリーダーシップトレーニングに関する研究—高等専門学校運動部員を対象として—」産業保健人間工学会第19回大会『産業保健人間工学研究』第16巻, suppl. 49-52頁, 2014年11月(於:産業医科大学)
研究者: 高野 修, 庄司直人, 水野基樹
15. 「フィットネスクラブにおけるレジリエンス支援のためのガイドライン作成の取り組み」産業保健人間工学会第19回大会『産業保健人間工学研究』第16巻, suppl. 75-79頁, 2014年11月(於:産業医科大学)
研究者: 庄司直人, 森口博充, 本多里也子, 北村茉衣, 水野基樹, 北村 薫
16. 「高校生に対する組織開発を目的とした授業の効果に関する研究—コミュニケーション能力向上プログラムを用いて—」第43回人類労働学会東日本地方会『大会プログラム・抄録』19-20頁, 2014年12月(於:横浜YMCA学院専門学校)
研究者: 坪井恭紀, 水野基樹
17. 「看護師のアサーションスキルと組織風土の関連に関する研究」第43回人類労働学会東日本地方会『大会プログラム・抄録』21-22頁, 2014年12月(於:横浜YMCA学院専門学校)
研究者: 本多里也子, 庄司直人, 富樫恵美子, 水野基樹
18. 「大学野球チームにおける組織変革プロセスに関する予備的研究—Kotterの組織変革モデルをフレームワークにして—」第43回人類労働学会東日本地方会『大会プログラム・抄録』23-24頁, 2014年12月(於:横浜YMCA学院専門学校)
研究者: 森口博充, 庄司直人, 北村茉衣, 水野基樹
- ⑤ 雑誌・新聞等:
1. 水野基樹著「One point ヒューマンファクター: 安全な空はみんなの願い ストレスにどう向き合うか: 航空関係者のストレスマネジメント」『小型機と安全運航』一般財団法人 航空機安全運航支援センター, 第73巻, 2-11頁.
2. 水野基樹著「キャリアデザインとレジリエンス: 職場

全体でレジリエンスを高める工夫・仕掛け』『労働の科学』公益財団法人 労働科学研究所, 第69巻4号, 210-214頁, 2014年4月。

⑥

【シンポジスト・コメンテーター】

1. 産業保健人間工学会 第19回全国大会 基調講演「私のからだと向き合う方法—オリンピックチャレンジを通して—」(演者は聖マリアンナ医科大学の室伏由佳氏)
座長: 水野基樹
2014年11月15日(北九州学術研究都市学術情報センター)
2. 人類働態学会公開シンポジウム(「くらしの中の共生」シンポジウムシリーズ第11回)
シンポジウム2: 自転車が街を変える
コメンテーター: 水野基樹
2014年12月20日(於: 横浜YMCA学院専門学校)
3. The 10th Pan-Pacific conference on Occupational Ergonomics, Program Committee.

【社会貢献活動(講演・講師)】

1. アクサ生命保険株式会社 アクサ・マネジメント・ユニバーシティ 講師
研修テーマ:「チームマネジメントによって目標達成を目指すリーダーの育成」
2014年1月24日-25日(ハイアット リージェンシー京都: 京都府)
2. 東京都葛飾区 スポーツ指導者養成講習会 講師
講演テーマ:「クラブリーダーの役割」
2014年2月9日(葛飾区総合スポーツセンター: 東京都)
3. アクサ生命保険株式会社 アクサ・マネジメント・ユニバーシティ 講師
研修テーマ:「チームマネジメントによって目標達成を目指すリーダーの育成」
2014年2月14日-15日(ウェスティンホテル東京: 東京都)
4. 順天堂大学医学部附属練馬病院・越谷病院 看護師研修会 講師
研修テーマ:「看護師のキャリアとリーダーシップ」
2014年3月1日-2日(成田ビューホテル: 千葉県)

5. 復興大学 地域復興支援ワンストップサービス事業(石巻センター) セミナー 講師
講演テーマ:「コーディネーターに求められるマネジメント能力について」
2014年3月12日(於: 石巻専修大学: 宮城県)
6. 東京都スポーツ文化事業団 スポーツクラブマネージャー養成講座 講師
講演テーマ:「クラブマネージャーの役割」
2014年6月8日(東京体育館: 東京都)
7. 千葉県社会体育協会 公認指導員講習会 講師
講演テーマ:「スポーツ組織の運営と事業」
2013年6月30日(千葉県総合スポーツセンター: 千葉県)
8. 神奈川県立体育センター スポーツクラブマネジメント講座 講師
講演テーマ:「クラブマネージャーの役割」
2014年7月5日(神奈川県立体育センター: 神奈川県)
9. 早稲田大学規範科学総合研究所・レギュラトリーサイエンス教育講座と公益財団法人労働科学研究所共催「知の市場」 講師
講演テーマ:「ストレスマネジメント—考え方と現場での応用」
2014年7月12日(於: 早稲田大学西早稲田キャンパス: 東京都)
10. 佐倉市民カレッジ 講師
講演テーマ:「チームワークを考える」
2014年7月19日(於: 佐倉市中央公民館: 千葉県)
11. 日本ダイバーショナルセラピー協会 DSW 養成講座 講師
講演テーマ:「コミュニケーションの理論と多様な実践」
2014年8月9日(熊本県民会館: 熊本県)
12. 千葉県社会体育指導者養成講習会 講師
講演テーマ:「スポーツ組織の運営と事業」
2014年8月24日(千葉県総合スポーツセンター: 千葉県)
13. 石巻信用金庫 経営セミナーイノベーション塾 講師
講演テーマ:「組織のコミュニケーション」
2014年9月4日(石巻信用金庫本店: 宮城県)

14. 東京都スポーツ文化事業団 地域スポーツクラブマネジメントセミナー 講師
講演テーマ：「人材の活用と参加型意思決定」
2014年9月10日（東京体育館：東京都）
15. アクサ生命保険株式会社 アクサ・マネジメント・ユニバーシティ 講師
研修テーマ：「チームマネジメントによって目標達成を目指すリーダーの育成」
2014年10月10日-11日（セミナーハウス クロス・ウェーブ幕張：千葉県）
16. 株式会社ホームケアサービス山口 社員研修会 講師
講演テーマ：「福祉組織におけるコミュニケーション」
2014年10月24日（ホテル ザ・グラマシー：山口県）
17. 岐阜県体育協会 アシスタントクラブマネジャー養成講習会 講師
講演テーマ：「クラブマネジャーの役割」
2014年10月26日（長良川スポーツプラザ：岐阜県）
18. アクサ生命保険株式会社 アクサ・マネジメント・ユニバーシティ 講師
研修テーマ：「チームマネジメントによって目標達成を目指すリーダーの育成」
2014年11月7日-8日（セミナーハウス クロス・ウェーブ梅田：大阪府）
19. 東京都スポーツ文化事業団 ゲーム戦略のためのデータ分析講座 講師
講演テーマ：「チームビルディング」
2014年11月25日（東京体育館：東京都）
20. 佐倉市民カレッジ 自主企画講座 講師
講演テーマ：「（元気コース）チームビルディング」
2014年12月3日（於：佐倉市中央公民館：千葉県）
21. 千葉県総合型地域スポーツクラブ北東地区ブロック別研修会 講師
講演テーマ：「地域コミュニティを見据えた活動の充実を図るには」
2014年12月14日（八日市場ふれあいセンター：千葉県）

准教授

木藤 友規

③

大野早苗, 廣津信義, 松山 毅, 木藤友規, スポーツ健康科学部における効果的な初年次教育の構築に向けてのレディネス調査一書く力を中心として一, 順天堂スポーツ健康科学研究, 第5巻 Supplement, p1, 2014

澤木啓祐, 形本静夫, 櫻庭景植, 鹿倉二郎, 青木和浩, 鯉川なつえ, 柳谷登志雄, 木藤友規, 石井好二郎, 杉田正明, 河合康明, 松尾 聡, 向井直樹, 阿江通良, 特殊トレッドミルの開発, 文部科学省チームニッポンマルチサポート事業活動記録, P138-142, 2014

④

大野早苗, 木藤友規, 廣津信義, 松山 毅, 大学1年生を対象とした学習についてのレディネス調査, 日本リメディアル教育学会第10回全国大会, 2014年8月21日

中嶽 誠, 木藤友規, バスケットボール競技におけるシュート成功確率と身長の関係, 日本体育学会大会第65回大会, 2014年8月28日

助教

伊藤 真紀

④

Itoh, M., & Hums, M. A. Role Model Influence on Women's Leadership. 6th IWG World Conference on Women and Sport. Helsinki, Finland. (2014, June)

Watanabe, N., Ogasawara, E., Machida, M., & Itoh, M. (2014). Team Leadership and Team Competency in Collegiate Women's Volleyball Teams. 2014 the 10 th Asia Association for Sport Management Conference Proceedings, Kaohsiung, Taiwan, June 24. 2014.

Itoh, M., Ogasawara, E. & Hums, M. A. (2014). Why Do Women Choose to Work in the Professional Baseball? Book of Abstract World Association For Sport Management Inaugural Conference, Madrid, Spain, October 3 rd. 2014. p. 116.

新井彬子, 小笠原悦子, 鯉川なつえ, 伊藤真紀, 井上 好

(2014). エリートスポーツにおける女性コーチの労働環境に関する報告：米国スタンフォード大学におけるケーススタディ. スポーツマネジメント学会第7回大会号, p. 54.

片山洋平・小笠原悦子・伊藤央二・伊藤真紀・新井彬子 (2014). スポーツに関する学生支援の現状. スポーツマネジメント学会第7回大会号, p. 47.

山田 泰行

①

1. Yamada Y, Kinooka Y, Ebara T, Mizuno M, Hirose M, Kamijima M. 「Descriptive evidence of the work-family compensation among Japanese midwives: Using the Multiple Role Map program」, 『Advances in Social and Organizational Factors』, Ed. Peter Vink, 2014, 420-4. CRC Press Taylor & Francis Group, London.

②

1. Suzumori N, Ebara T, Kumagai K, Goto S, Yamada Y, Kamijima M, Sugiura-Ogasawara M. Non-specific psychological distress in women undergoing noninvasive prenatal testing because of advanced maternal age. *Prenatal Diagnosis*. 34(11): 1-6, 2014.

③報告・資料

1. 山田泰行, 他: 環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」愛知ユニットセンター平成22年度～平成25年度リクルート期活動報告書: 1-286, エコチル調査愛知ユニットセンター事務局, 2014.

④学会発表

1. Yamada Y, Hochi Y, Mizuno M. Key points of procedures of Multiple Role Map program toward Japanese nurses: Differentiation between individual and group approaches. *Proceedings and Abstract of the 10th Pan-Pacific Conference on Occupational Ergonomics*: 56, 2014, Tokyo.

2. Yamada Y, Kinooka Y, Ebara T, Mizuno M, Hirose M, Kamijima M. Descriptive evidence of the work-family compensation among Japanese midwives: Using the Multiple Role Map program. *Proceedings of the 5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics AHFE 2014*: 6052-6, 2014, Poland.

3. Ebara T, Yamada Y, Kamijima M, Suzumura H, Tachi N. Development of resilience measurement scale specifically for medical error mitigation in nursing. *Abstract of the 21st Asian Conference on Occupational Health*: 197, 2014, Fukuoka.

⑤

1. 芳地泰幸, 山田泰行: 現場を第一に考える視点で, 労働の科学, 69(8): 50-52, 2014.

⑥

【研究・学会活動】

1. 人類労働学会 理事・事務局長
2. 日本人間工学会「人間工学誌」第3期・第4期編集委員
3. 公益財団法人労働科学研究所 協力研究員

【査読】

1. 日本人間工学会「人間工学誌」査読
2. 日本スポーツ心理学会「スポーツ心理学研究」査読

【社会貢献活動】

1. 株式会社ラーニングバリュー「統計講習会」講師
2. 岐阜県揖斐郡大野町教育委員会 青少年育成研修会「子ども達が持ち味を発揮できる環境をつくるために」講師

〔健康学科〕

教授

島内 憲夫

②

鈴木美奈子・島内憲夫・広沢正孝. 幸福・健康感覚尺度(Happiness & Health Feeling Scale: 2HFS)の大学生を対象とした信頼性と妥当性の検討: 日本健康教育学会誌 22(4): 1-9, 2014.

③

中嶽 誠・鈴木良雄・島内憲夫他. JNASグループ. 運動部に所属する大学生の栄養素摂取の実態. 調理食品と技術: 日本調理食品研究会誌 20(3): 105-111, 2014.

④

【特別講演】

第45回日本看護学会ヘルスプロモーション学会学術集会「ヘルスプロモーションの起源と歩み～日本の近未来への提案～」
2014年8月28日：熊本県（立演劇劇場ホール）

【座長】

第12回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会の大会長講演の座長を務める。

大会長講演：「ヘルスプロモーションを視野に入れたヒューマンケアリングの展開」（櫻井しのぶ：順天堂大学大学院医療看護学研究科教授）

【シンポジスト】

第23回日本健康教育学会「宮坂忠夫先生追悼シンポジウム」
2014年7月12日：札幌

【発表】

宮野賢，鈴木美奈子，島内憲夫，労働者の主観的健康観と生活習慣：49, 2014.

第12回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会 抄録集，49, 2014.

今井美奈子・島内憲夫，鈴木美奈子：高齢者の主観的幸福感の現状：

第12回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会 抄録集，53, 2014.

大久保武人，大久保菜穂子，鈴木美奈子，金子和夫，島内憲夫．ロコモティブシンドロームに関する調査と予防教育の効果：第12回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会 抄録集，67, 2014.

小野 博，島内憲夫，鈴木美奈子．スポーツ系大学生の健康保持能力とレジリエンスの関連：第12回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会 抄録集，69, 2014.

⑤

島内憲夫．巻頭言一学校は“主体性を育む楽しい夢工場”一心とからだの健康 12: 9, 2014.

⑥

【講演】

2014年1月24日 神奈川県茅ヶ崎市「ちがさき健康づくり

講座」講師

2014年2月16日 神奈川県座間市「健康文化都市大学」講師

2014年6月8日 千葉県白井市「白井市民大学校講座」講師

2014年6月27日 千葉県習志野市「庁内作業部会メンバー：ヘルスプロモーション研修会」講師

2014年7月3日 千葉県取手市職員研修「健康づくり・幸せづくり研修会」講師

2014年8月8日 千葉県白井市教育委員会教育センター「夏季研修講座」講師

2014年9月30日 千葉県柏市「健康づくり推進委員研修会」講師

2014年10月1日 神奈川県座間市「健康なまちづくり推進委員会」講師

2014年10月15日 千葉県習志野市「習志野市健康づくり推進員養成講座」講師

2014年10月17日 神奈川県学校保健連合会養護教諭部会講演会 講師

2014年11月22日 愛知県東郷町「健康なまちづくり包括協定 記念講演会」講師

【公開講座】

2014年11月1日 順天堂大学公開講座「学生と地域住民との交流会」コーディネーター

広澤 正孝

①

1) 広沢正孝：精神医学．日本精神保健福祉士養成校協会編，精神保健福祉士国家試験模擬問題集2014，問題編 pp6-10，解答編 pp1-10，中央法規，東京，2014.

2) 広沢正孝：自閉症スペクトラム障害の夫をもつ妊婦・授乳婦のサポート．伊藤真也，村島温子，鈴木利人編，向精神薬と妊娠・授乳，pp210-216，南山堂，東京，2014.

3) Kawata, Y., Hirosawa, M., Kamimura, A., Yamada, K., Kato, T., Oki, K., Wakui, S., Izutsu, S., Mizuno, M.: Resilience, psychological stressors, and stress responses in Japanese university athletes. New Ergonomics Perspective: Selected papers of the 10th Pan-Pacific Conference on Ergonomics, Tokyo, Japan, 25-28 August 2014. Sakae

Yamamoto (ed.) Taylor & Francis Group, UK, London 2014. 6 pages.

- 4) Kawata, Y., Kamimura, A., Izutsu, S., Yamada, K., Iizima, M., Mizuno, M., Hirosawa, M.: Relative age effect in physical and psychological development in young Japanese children and associated problems for kindergarten teachers. *Advances in Human Factors and Ergonomics 2014*. Gavriel Salvendy, Waldemar Karwowski (eds.). AHFE conference, UK, London, pp6046-6051, 2014.

②

- 1) 小野 隆, 涌井佐和子, 広沢正孝: 介護予防事業の運動介入による自己効力感への効果: 痛みの違いによる縦断的变化. *生涯スポーツ研究*, 11(1); 27-32, 2014.
- 2) 山田 快・荒井弘和・中澤 史・川田裕次郎・上村明・北村 薫・広沢正孝: スポーツチームの一体感と組織風土との関係性—コミュニケーションを起点とした一体感向上へのアプローチ方法の検討—*スポーツ産業学研究*, 24, 113-128, 2014.
- 3) Kawata, Y., Hirosawa, M., Kirino, E.: Relationship between Innate Cognitive Styles and Mind Reading among Japanese University Students: An Approach based on Empathizing-Systemizing Theory. *Juntendo Medical Journal* (in press).

③

- 1) 広沢正孝: 発達障害と精神疾患. *精神療法*, 40(1); 141-149, 2014.
- 2) 広沢正孝: 自閉症スペクトラム障害に並存しやすい精神症状の治療. *精神科治療学*, 29(増刊号); 270-272, 2014.

④

- 1) Yamada, Y., Kinooka, Y., Ebara, T., Mizuno, M., Hirosawa, M., Kamijima, M.: Descriptive evidence of the work-family compensation among Japanese midwives: Using the Multiple Role Map program. *The 5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics 2014*.

- 2) Kawata, Y., Hirosawa, M., Kamimura, A., Yamada, K., Kato, T., Oki, K., Wakui, S., Izutsu, S., Mizuno, M.: Resilience, psychological stressors, and stress responses in Japanese university athletes. *The 10th Pan-Pacific Conference on Ergonomics*, Tokyo, Japan, 25-28 August 2014. CD-ROM.

- 3) Kawata, Y., Hirosawa, M., Kamimura, A., Yamada, K., Kato, T., Oki, K., Wakui, S., Izutsu, S., Mizuno, M.: A Role of Resilience in Psychological Stressors and Stress Responses among Japanese University Athletes. *The 7th Asian-South Pacific Association of Sports Psychology International Congress*, Tokyo, Japan, 7-10 August 2014. CD-ROM.

- 4) Yamada, K., Kamimura, A., Kato, T., Oki, K., Kawata, Y., Hirosawa, M.: The Effect of Unity on the Mental Health of Sports teams. *The 7th Asian-South Pacific Association of Sports Psychology International Congress*, Tokyo, Japan, 7-10 August 2014. CD-ROM.

- 5) Kamimura, A., Kawata, Y., Izutsu, S., Yamada, K., Hirosawa, M.: The Relative Age Effect on Physical Education and Other University Students. *The 7th Asian-South Pacific Association of Sports Psychology International Congress*, Tokyo, Japan, 7-10 August 2014. CD-ROM.

- 6) Oki, K., Kamimura, A., Kato, T., Yamada, K., Kawata, Y., Hirosawa, M.: Effect of doing part time job on mental health among Japanese sports university students. *The 7th Asian-South Pacific Association of Sports Psychology International Congress*, Tokyo, Japan, 7-10 August 2014. CD-ROM.

- 7) Kawata, K., Kamimura, A., Izutsu, S., Yamada, K., Iizima, M., Mizuno, M., Hirosawa, M.: Relative age effect in physical and psychological development in young Japanese children and associated problems for kindergarten teachers. *Proceedings of the 5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics AHFE 2014*, Kraków, Poland 19-23 July 2014, Edited by T. Ahram, W. Karwowski and T. Marek. CD-ROM.

- 8) Izutsu, S., Kawata, Y., Kamimura, A., Yamada, K.,

- Hirosawa, M.: The Relative Age Effect on Physical Size and Motivation for Sports Continuity among 11-12-year-old Track and Field Athletes. Proceedings of the 5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics AHFE 2014, Kraków, Poland 19-23 July 2014, Edited by T. Ahram, W. Karwowski and T. Marek. CD-ROM.
- 9) Kamimura, A., Kawata, Y., Yamada, K., Oki, K., Hirosawa, M.: Relationships between Resilience, Stressors, and Athlete Burnout among Japanese University Athletes. Proceedings of the 5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics AHFE 2014, Kraków, Poland 19-23 July 2014, Edited by T. Ahram, W. Karwowski and T. Marek. CD-ROM.
- 10) 広沢正孝: 統合失調症と広汎性発達障害. 第14回日本外来臨床精神医学会学術大会, シンポジウム, 東京医科歯科大学, 2014/2/16.
- 11) 川田裕次郎, 桐野衛二, 広沢正孝: fMRIを用いたマインド・リーディングの神経基盤の解明—EmpathizingとSystemizingの認知スタイルに着目して—. 第17回薬物脳波学会発表抄録, p8. 伊豆の国市, 2014/6/13-14.
- 12) 広沢正孝: 成人の高機能ASD (PDD) 者を中心に. 第110回日本精神神経学会学術総会, 会長企画シンポジウム (大人になってから見出される自閉症スペクトラム障害: 問題点の整理, 司会およびシンポジストとして), パシフィコ横浜, 2014/06/26.
- 13) 山田 快, 上村 明, 沖 和砂, 加藤恭章, 川田裕次郎, 広沢正孝: スポーツチームの一体感が選手のメンタルヘルスに及ぼす影響. 日本体育学会第65回大会予稿集, p119. 岩手大学, 2014/8/25-27.
- 14) 沖 和砂, 上村 明, 加藤恭章, 山田 快, 川田裕次郎, 広沢正孝: 競技を行う体育系学生の居住形態の違いがストレスの認知と精神的健康に与える影響. 日本体育学会第65回大会予稿集, p132, 岩手大学, 2014/8/25-27.
- 15) 加藤恭章, 広沢正孝: Body Schema能力測定を目的としたMental Rotation課題の検討. 日本体育学会第65回大会予稿集, p124, 岩手大学, 2014/8/25-27.
- 16) 中村恭子, 広沢正孝, 細見 修, 山倉文幸, 鈴木利人, 久保田陵一, 三芳理恵, 玉田和美: 精神科リハビリテーションとしてのスポーツの有効性—運動強度や難度が心理的・生理的ストレス反応に及ぼす影響—. 第57回日本病院・地域精神医学会, 仙台, 2014/10
- 17) 山田美紀, 山田 快, 沖 和砂, 仲村 明, 広沢正孝: 大学男子駅伝選手の気分及びストレスと主観的達成度との関連性. 日本健康心理学会第27回大会予稿集, p157, 沖縄科学技術大学, 2014/11/1-2.
- 18) 宇田川和也, 広沢正孝, 川田裕次郎, 上村 明, 飯嶋正博: 絵画構造とEmpathizing-Systemizingモデル—精神障害者の絵画療法への寄与に向けて—. 日本健康心理学会第27回大会予稿集, p157, 沖縄科学技術大学, 2014/11/1-2.
- 19) 上村 明, 川田裕次郎, 沖 和砂, 広沢正孝: スポーツ系大学学生のレジリエンスは1年後の抑うつ症状を予測できるか. 日本ヘルスプロモーション学会第12回大会予稿集, p12, 順天堂大学浦安キャンパス, 2014/11/29-30.
- ⑥
科学研究費申請課題
- 1) 広沢正孝: 基盤研究 (C), スポーツ集団における集団凝集性とメンタルヘルスの関連性, 2012-2015.
- 学会誌企画
- 1) 広沢正孝: 人物紹介—森政弘. 臨床精神病理, 35(3); 223, 2014.
- 学術講演・教育講演
- 1) 広沢正孝: 認知症と特別なニーズを持つ人への配慮と工夫. ダイバーショナルセラピー研修会, 大阪リバーサイドホテル, 2014/01/26
- 2) 広沢正孝: 発達障害者のこころの理解—成人の高機能ASD (PDD) 者を中心に. 平成25年度日本臨床心理士会定例研修会II (大阪), 大阪科学技術センター, 2014/02/09.
- 3) 広沢正孝: 自閉症スペクトラム障害と統合失調症の理

解一彼らの「こころの構造」と精神病理. 日本臨床心理
研修センター平成26年度夏期講習会, 跡見女子大学文教
キャンパス, 2014/08/10.

- 4) 広沢正孝: 認知症と特別なニーズを持つ人への配慮と工夫. ダイバーショナルセラピー研修会, トータルケアセンター・赤とんぼ (熊本), 2014/09/13
- 5) 広沢正孝: 自閉症スペクトラム障害と統合失調症—精神病理学の観点から. 仙台精神科学術講演会 (特別講演), ホテルメトロポリタン仙台, 2014/10/10
- 6) 広沢正孝: 精神障害者のこころの理解—自閉症スペクトラム障害を中心に. 富山県精神医科学講演会 (特別講演), ANAクラウンプラザホテル富山, 2014/11/14
- 7) 広沢正孝: 統合失調症の寛解過程とリハビリテーション. 岡山精神科デイケア研究会学術講演会 (特別講演), 岡山プラザホテル, 2014/11/28

先任准教授 飯嶋 正博

③

1. 「2013年日本リハビリテーション心理学会 (学術大会) 及び第39回心理リハビリテーションの会全国大会 (岩手大会) 報告」千葉県心理リハビリテーション連絡会ニュースレター Vol. 7 1-8 2014 2.01
2. 「実技研修: 家庭でできる訓練を覚えて帰ろう!—肩まわりの訓練を中心に—」千葉県心理リハビリテーション連絡会情報交換会 研修会 資料1-2 2014 2.01
3. 「体育が苦手な子への支援—子どもの意欲を引き出すために—」不器用な子への理解とその支援—発達障害のある子を中心に— 発達協会春のセミナー 資料 H14-22 2014 2.16
4. 「巡回指導のポイント」東京都立久我山青光学園 巡回指導 資料1-3 2014 3.10
5. 「不器用な子どもの動きづくり ピアノ編」ムジカノーヴァ 第45巻第7号14-17 2014 7.01
6. 「これに注目: ウッドボルト」ムジカノーヴァ 第45巻第7号3 2014 7.01 取材
7. 「腰まわりの見立てと訓練手順 (体位の変化に応じて)」第13回トレーナー研修会 夏期心理リハビリテーション研修会 資料1-3 2014.7.12
8. 「水泳指導」千葉県たんぼぼの会 (ダウン症児親の会) 2014.7.6
9. 「心理リハビリテーション—動作法の理論と実践— Ver. 001」千葉県ひまわりの会 夏期集中訓練会 研修 資料1-24 2014.7.25-27
10. 「運動発達の理解と指導」ダウン症への理解と生涯発達をふまえた支援—出生前診断も含めて— 実践セミナー1-B 発達協会夏セミナー 資料1B14-20 2014.7.28
11. 「知的障害児の動きづくりについて—身体や動きをつくるための具体的な指導法について—」東京都立久我山青光学園 教職員研修会 資料1-8 2014 7.29
12. 「知的障害児の身体づくり実技指導2名」「知的障害児の身体づくり・体育指導—身体や動きをつくる具体的な指導法について—」千葉県立八日市場特別支援学校 教職員研修会 資料1-8 2014 7.30
13. 「プール指導」武蔵野ひまわりの会 8.2
14. 「運動指導」千葉たんぼぼの会 8.6
15. 「動作法研修会」にじと風 8.7
16. 「心理リハビリテーション—動作法の理論と実践— Ver. 002」市川なのはな会 8.10-11
17. 「心理リハビリテーション—動作法の理論と実践— Ver. 003」千葉さくらんぼの会 8.21-24
18. 「運動発達の理解と指導—就学前・就学後の支援—」あらかわ「親育ち」支援事業 荒川区ダウン症親の会 資料1-18 9.07
19. 「感覚過敏・感覚鈍麻のある子へのリラクゼーション—動作法を中心に—」発達障害・知的障害のある子の「感覚」への支援—感覚統合への理解も含めて— 秋セ

ミナー2 発達協会秋セミナー 資料② 17-23
2014.9.28

20. 「お父さん・お母さんの動作法講習会」千葉たんぼの会（ダウン症児親の会）資料 1-15 千葉市美浜保健福祉センター 2014.10.21

21. 「自立活動研修会：心理リハビリテーション—動作法の理論と実践」印旛特別支援学校 資料 1-6 2014.10.31

22. 「動作法を実施する際の危機意識に関して—ヒヤリ・ハット・キガカリ活動—」日本リハビリテーション心理学会 学術大会 発表論文集 48-49 2014.12.05

23. 「デモンストレーション 知的障害への動作法,」進行・コメンテーター 第10回 心理リハビリテーションの会全国大会（長野大会）2014.12.06

24. 「動作法学習会」習志野市ことばを育てる親の会 講演・実践指導 習志野市向山小学校ことばの教室 資料 1-2 2014.12.19

牛尾 直行

④
「在外教育施設の運営上の課題とその解決へ向けての支援」（発表者：岡田要，指定討論者：牛尾直行），日本教育制度学会第22回大会（高知大学），2014年11月8日

⑥
日本教育制度学会紀要編集委員会編『教育制度研究』常任編集委員
東京地区教職課程研究連絡協議会運営委員

田中 純夫

③
1. 中島祐介・田中純夫：児童における身体活動とレジリエンスおよび社会的スキルとの関連～自然体験活動に着目して～，順天堂スポーツ健康科学研究 第5巻第2号（通巻65号），39-43，2014年

④
1. 田中純夫，佐渡幹也，西田敬志：E-S理論からみた大学生の愛着スタイルとその関連要因(1)—E-S5 類型による愛着スタイルと共感性の差異—，日本教育心理学会第56回総会発表論文集：621，2014

2. 西田敬志，田中純夫：E-S理論からみた大学生の愛着スタイルとその関連要因(2)—ストレッサーの差異に着目して—，日本教育心理学会第56回総会発表論文集：622，2014年

⑤
1. 田中純夫：蛭雪時代臨時増刊2014年入試対策用全国大学学部・学科案内号，学問分野別ガイダンス健康科学，旺文社980-981，2014

⑥
科学研究費申請課題名：
発達障害と愛着障害から見た大学生の適応把握と学修キャリア支援システムの構築

その他：
科学研究費助成事業研究成果報告書（基盤研究C:22530759）学校における自閉症スペクトラムのアセスメントと教員研修における活用法の考案

四方田 清

①
1. 新・精神保健福祉養成講座6「精神保健福祉に関する制度とサービス」第3版．共著，日本精神保健福祉士養成校協会編，pp110-113（精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス：自殺対策），中央法規出版，2014

③
1. 精神保健福祉センターにおける精神保健福祉士必置の意義—精神医療審査会事務局強化に関する全国調査を中心に—．四方田清，伊東秀幸，齋藤敏靖，行實志都子，田村綾子，石田賢哉，順天堂スポーツ健康科学研究第6巻第1号，pp27-33，順天堂大学，2014
2. 精神障害者に期待されるスポーツの必要性和課題—精神障害者ソフトバレーボール大会を中心に—．大井崇弘，四方田清，松山毅，行實志都子，順天堂スポーツ健康科学研究第6巻第1号，pp34-39，順天堂大学，2014

3. 平成25年度厚生労働科学研究費補助金（心の健康問題健康科学研究事業）分担研究報告書「入院患者の権利擁護に関する研究」「新たな地域精神保健医療体制の構築のための実態把握および活動の評価等に関する研究」. 共著者, 河崎健人, 平田豊明, 浅井邦彦, 東 司, 岡崎伸郎, 鴻巣泰治, 田邊 等, 千葉 潜, 中島豊爾, 永野貫太郎, 藤田健三, 松浦玲子, 松原三郎, 三木恵美子, 光石忠敬, 山下俊幸, 八尋光秀, 吉澤雅子, 四方田清, 2014
4. 平成25年公正労働科学研究費補助金（長寿・障害総合研究事業）（精神障害分野）分担研究報告書「行政機関（市町村）に勤務する精神保健福祉士に関する研究」「精神保健福祉士の活動評価および介入方法の開発と普及に関する研究」. 共著者, 四方田清, 伊東秀幸, 齋藤敏靖, 行實志都子, 田村綾子, 石田賢哉, 2014

④

1. 第52回千葉県公衆衛生学会（一般演題：千葉県千葉市）, 「精神障害者に期待されるスポーツの必要性和課題—千葉県・千葉県精神障害者ソフトバレーボール大会を中心に—」○大井崇弘, 四方田清

⑥

科学研究費申請課題

申請あり「当事者主体の新たな精神医療審査体制の構築に関する研究」

講演等

1. 「今, 地域で必要とされている「こと」とは? —精神障害者の理解と支援—」平成26年度 心の健康市民講座（印西メンタルヘルスサポーター養成編）, 印西市役所大講堂, 主催：印西市社会福祉課（2014.8.25）
2. 「精神保健福祉ボランティア講座—精神障害者の理解と支援—」成田保健福祉館, 主催：成田市社会福祉協議会（2014.10.9）

涌井佐和子

②

- 1) 涌井佐和子, 長島未央子, 萩裕美子, 東恩納玲代, 吉武 裕：国保加入者における特定健康診査受診状況と身体活動に関わる要因との関連, 生涯スポーツ学研究, 10(1): 11-20, 2014年3月

- 2) 范 翔, 竹下俊一, 東恩納玲代, 永山 寛, 吉田剛一郎, 隅野美砂輝, 和田智仁, 前田 明, 西園秀嗣, 齋藤和人, 涌井佐和子, 吉武 裕：過疎地域に在住する高齢女性の体力と身体的特性, 生活習慣ならびに社会的特性との関係, 生涯スポーツ学研究, 10(1): 21-30, 2014年3月

③

- 1) 小野 隆, 涌井佐和子, 広沢正孝：地域における介護予防事業の自己効力感に対する効果についての縦断的研究, 生涯スポーツ学研究, 11(1): 27-32, 2014年10月
- 2) 濱野光之, 中村 充, 神原直幸, 涌井佐和子, 白石知己, 高橋佐江：2013年度 さくらキャンパス学生実態調査報告, 順天堂大学スポーツ健康科学研究, 5: 27-31, 2014年3月

④

- 1) 涌井佐和子, 長島未央子, 萩裕美子, 東恩納玲代, 吉武 裕：特定健診受診行動に関する行動変容ステージと意思決定のバランス, 健康行動との関連, 第13回日本体育測定評価学会（天理大学：奈良県）, 2014年3月（優秀発表賞）

- 2) Kawata Y, Hirokawa M, Kamimura A, Yamada K, Wakui S, Izutsu S, & Mizuno M: Resilience, Psychological Stressors, and Stress Responses in Japanese University Athletes, 10th Pan-Pacific Conference on Occupational Ergonomics (Tokyo metropolitan university, Tokyo), 2014年8月

- 3) 涌井佐和子, 丸山麻子, 町田 萌, 中村亜紀, 亀本佳世子, 須永美歌子：大学生女性アスリートにおける月経周期と心理的運動パフォーマンスとの関係, 第69回日本体力医学会（長崎大学文教キャンパス：長崎県）, 2014年9月

- 4) 西尾進也, 黒田 豊, 松本真之, 原口 晃, 涌井佐和子：高齢者における最大酸素摂取量と生活習慣予防, 第69回日本体力医学会（長崎大学文教キャンパス：長崎県）, 2014年9月

- 5) 黒田 豊, 原口晃, 松本真之, 西尾進也, 涌井佐和子：生活習慣改善プログラムにおける安静時・運動時の

血圧動態, 第69回日本体力医学会 (長崎大学文教キャンパス:長崎県), 2014年9月

- 6) 范 翔, 竹下俊一, 東恩納玲代, 永山 寛, 涌井佐和子, 吉武 裕, 吉田剛一郎, 松元降秀樹, 西園秀嗣, 齋藤和人: 過疎地域に在住する高齢者の下肢疼痛と生活習慣及び日常生活動作能力との関係, 第69回日本体力医学会大会 (長崎大学文教キャンパス, 長崎県), 2014年9月
- 7) 宇井美香, 涌井佐和子: ジャマイカにおける知的障がい者を対象とした体操競技普及の取組みと課題, 第16回日本生涯スポーツ学会 (大阪体育大学・あべのハルカス:大阪府), 2014年10月
- 8) 須永美歌子, 亀本佳世子, 富永梨紗子, 山内 亮, 涌井佐和子, 町田 萌, 丸山麻子: 月経周期に伴う主観的コンディションの変化と疲労バイオマーカーとの関連性の検討, 第28回女性スポーツ医学研究会 (東京慈恵会医科大学, 東京都) 2014年12月 (優秀演題賞)

⑤雑誌・新聞等

- 1) 涌井佐和子, 「養成校を訪ねて 12. 順天堂大学」, 月刊「健康づくり」誌3月号, 公益財団法人健康・体力づくり事業財団, 2014年3月

⑥

(1) 査読

- 1) 日本生涯スポーツ学会
2) 日本スポーツ産業学会
3) 日本体力医学会

(2) 座長

- 1) 日本体育学会第65回大会 体育測定評価分科会口頭発表1 (岩手大学) 2014年8月

(3) 講演・講習会

- 1) 東京都文京区立柳町小学校健康講演会「児童の健全な成長を育むための健康管理について～食習慣や運動習慣等の観点」講演会講師 (東京都文京区) 2014年2月
○四街道市スポーツリーダーバンク登録者に対する研修会講師 (四街道市総合体育館:千葉県) 2014年4月
- 2) 千葉県健康福祉部健康づくり支援課「平成26年度特定健診・特定保健指導実践者育成研修会 (身体活動・運動

に関する保健指導)」講師 (千葉県千葉市ホテルプラザ菜の花), 2014年6月

- 3) 千葉県健康福祉部健康づくり支援課「平成26年度特定健診・特定保健指導実践者スキルアップ研修会」講師, (千葉県文化会館:千葉県千葉市) 2014年10月
- 4) 順天堂大学公開講座 健康講座「からだの健康 (運動) 活動的なライフスタイルのために」(順天堂大学さくらキャンパス) 2014年11月
- 5) 千葉県香取健康福祉センター 香取管内事業所向け講演会 (対象:ハウジング重兵衛)「みんなで今日から運動習慣づくり」(千葉県佐原市佐原公民館) 2014年12月

准教授

松山 毅

①

松山 毅 「学び」を通して「社会」を変える～ボランティア学習論の挑戦」

日本福祉教育・ボランティア学習学会編『リーディングス 福祉教育とボランティア学習の新機軸～学際性と変革性』 大学図書出版 p185-189

③

『福祉教育ハンドブック ACCESS & SUCCESS』 千葉県社会福祉協議会・福祉教育ハンドブック編集委員会 (編集委員長・松山 毅) 全体編集および「第I部 福祉教育について」執筆

④

「大学1年生を対象とした学習についてのレディネス調査」 大野早苗・木藤友規・広津信義・松山 毅, 第10回日本リメディアル教育学会

⑥千葉県福祉教育推進員養成研修講師 (千葉県社会福祉協議会),

「これからの地域福祉」佐倉国際文化大学 (2014.11), 「地域を基盤とした福祉教育の進め方について」浦安市社会福祉協議会 (2014.8),

「地域の福祉を進めるということ～地域組織化・ソーシャルワーク」大網白里市社会福祉協議会 (2014.11)

渡邊 貴裕

①

渡邊貴裕 (分担執筆) : Adaptive Skills profile of students: Information for School-Teachers and Trainers 学校適応スキルプロフィール 適応スキル・支援ニーズのアセスメントと支援目標の立案 : 福村出版, 2014.

②

渡邊貴裕・橋本創一・菅野 敦 : 知的障害特別支援学校の体育・スポーツ指導における体力・運動能力等調査の実践と課題, 発達障害学研究 第36巻2号, pp. 196-208, 2014.

④

渡邊貴裕・橋本創一・佐藤功一・小泉浩一・菊池哲平 : ダウン症児の学校適応と教育支援—発達と障害特性に応じたサポートを考える—, 日本特殊教育学会第52回大会論文集, pp. P81,

渡邊貴裕・尾高邦生・橋本創一・菅野敦 : 特別支援学校における健康・運動プログラムの検討(1) : 日本発達障害学会第49回研究大会発表論文集, pp. 3-6,

尾高邦生・渡邊貴裕・橋本創一・菅野 敦 : 特別支援学校における健康・運動プログラムの検討(2) : 日本発達障害支援システム学会2014年度研究大会, pp. 20,

前鼻啓史・吉村雅文・渡邊貴裕 : ブラインドサッカー選手の敏捷性に関する基礎的研究, 第18回日本アダプテッド体育・スポーツ学会大会論文集, pp. 43,

⑥

日本発達障害学会理事・編集幹事

日本発達障害支援システム学会理事

日本発達障害支援システム学会2014年度研究大会実行委員
平成26年度千葉県初級障害者スポーツ指導員養成講習会講師「(講習科目) 障害の理解とスポーツ (知的)」

平成26年度千葉市初級障害者スポーツ指導員養成講習会講師「(講習科目) 障害の理解とスポーツ (知的)」

東京都杉並区立済美養護学校校内研究授業講師

講師

中西 唯公

④学会発表 :

1. 北川貴子, 中西唯公 : 特定保健指導利用率向上を目指した取り組みについて. 第54回全国国保地域医療学会, p164, 2014

2. 中西唯公, 櫻井しのぶ, 原田静香, 中澤智美 : 地域における30代女性の健康状態について—30代健診の結果よりみえてきたこと—. 第73回日本公衆衛生学会総会抄録集, p327, 2014

3. 中山久子, 原田静香, 齋藤尚子, 岡本美代子, 中西唯公, 櫻井しのぶ : 発達障害児の運動プログラム参加に関する保護者の視点から見た意義 第2報. 第73回日本公衆衛生学会総会抄録集, p408, 2014

4. 齋藤尚子, 五味正治, 中山久子, 岡本美代子, 原田静香, 中西唯公, 櫻井しのぶ : 認知症サポーター養成講座受講者の認識・行動の変化—養成講座修了3か月後の状況—. 第73回日本公衆衛生学会総会抄録集, p443, 2014

5. 岡本美代子, 櫻井しのぶ, 中山久子, 原田静香, 齋藤尚子, 中西唯公 : 地方都市におけるがん患者の在宅での看取りについて. 第73回日本公衆衛生学会総会抄録集, p470, 2014

6. 櫻井しのぶ, 齋藤尚子, 中西唯公, 原田静香 : 地域組織活動を行う住民の保健師に対する要望. 第73回日本公衆衛生学会総会抄録集, p492, 2014

7. 岡本美代子, 櫻井しのぶ, 中山久子, 原田静香, 中西唯公, 齋藤尚子 : デング熱の流行による市民の対処行動と不安についての調査—市民公開講座での質問紙調査から—. 日本ヘルスプロモーション学会第12回大会予稿集, p51, 2014

8. 齋藤尚子, 中山久子, 岡本美代子, 原田静香, 中西唯公, 櫻井しのぶ : インターネット上での生後4か月までの育児相談の現状. 日本ヘルスプロモーション学会第12回大会予稿集, p64, 2014

9. 中西唯公, 櫻井しのぶ, 原田静香, 中山久子, 岡本美

代子, 齊藤尚子, 中澤智美: 30代女性のソーシャルサポートの現状と健康との関連について. 日本ヘルスプロモーション学会第12回大会予稿集, p52, 2014

10. 笠 真帆, 中西唯公, 櫻井しのぶ, 岡本美代子, 原田静香, 齋藤尚子, 中山久子: 中学生の朝食欠食の原因から保健指導に必要な要素を探る. 日本ヘルスプロモーション学会第12回大会予稿集, p66, 2014

⑥

- 三重県三重郡菰野町役場「データヘルス☆菰野モデル」事業スーパーバイズ (2014年度)
- 三重県津市白山町上ノ村寺子屋「東日本大震災と支援の実際について」講演 (2014年8月)

助教

佐々木 啓

②

Sasaki H, Ishikawa H, Asano R, Ueshiba H, Matsumoto T, Boot R, Kawamoto E. 2014. Draft genome sequence of the rodent opportunistic pathogen *Pasteurella pneumotropica* ATCC 35149T. *Genome Announcements* 2(4):e00771-14

③

Sasaki H. 2014. Intranasal immunization with a non-adjuvanted adhesive protein descended from *Pasteurella pneumotropica* and its preventive efficacy against opportunistic infection in mice. *World Biomedical Frontiers* 2014 March (<http://biomedfrontiers.org/infection-2014-3-23/>, ISSN: 2328-0166)

④

Ishikawa H, Sasaki H, Fukui T, Tanaka K, Matsumoto T. The exogenous IL-12 treatment has opposite effects depending on whether it is administered before or after influenza virus infection. 2014 (12月10-12日京都) 第43回日本免疫学会学術集会

石川裕樹, 佐々木啓, 福井利江, 田中和生, 松本哲哉. インフルエンザウイルス感染に対するIL-12経鼻投与の有効性と病態増悪効果のメカニズム解明. 2014 (11月10-12日横浜) 第62回日本ウイルス学会学術集会

Sasaki H, Ishikawa H, Kojima K, Itoh M, Matsumoto T,

Kawamoto E. Intranasal immunization with a non-adjuvanted adhesive protein descended from *Pasteurella pneumotropica* and its preventive efficacy against opportunistic infection in mice. 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology 2014 (3月25日 東京)

Sasaki H, Ishikawa H, Ueshiba H, Kojima K, Matsumoto T, Kawamoto E. *Pasteurella pneumotropica* IbpA protein is tyrosine-phosphorylated in macrophage cells. 2014 (3月26-28日 東京) 第87回日本細菌学会総会

⑥

学会誌等の査読経験なし

鈴木美奈子

②

鈴木美奈子・島内憲夫・広沢正孝. 幸福・健康感覚尺度 (Happiness & Health Feeling Scale: 2HFS) の大学生を対象とした信頼性と妥当性の検討: 日本健康教育学会誌 22 (4): 1-9, 2014.

③

中嶽 誠・河合祥雄・鈴木良雄・鈴木美奈子他. JNAS グループ. 運動部に所属する大学生の栄養素摂取の実態. 調理食品と技術: 日本調理食品研究会誌 20 (3): 105-111, 2014.

④

【座長】

第12回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会 シンポジウム: 「生涯にわたる女性のヘルスプロモーション」座長

【発表】

宮野 賢, 鈴木美奈子, 島内憲夫. 労働者の主観的健康観と生活習慣: 49, 2014. 第12回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会 抄録集, 49, 2014.

今井美奈子・島内憲夫, 鈴木美奈子. 高齢者の主観的幸福感の現状: 第12回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会 抄録集, 53, 2014.

大久保武人, 大久保菜穂子, 鈴木美奈子, 金子和夫, 島内憲夫. ロコモティブシンドロームに関する調査と予防教育の効果: 第12回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・

総会 抄録集, 67, 2014.

小野 博, 島内憲夫, 鈴木美奈子. スポーツ系大学生の健康保持能力とレジリエンスの関連: 第12回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会 抄録集, 69, 2014.

⑥

【講演】

2014年6月27日 千葉県習志野市「庁内作業部会メンバー:ヘルスプロモーション研修会」講師

2014年7月3日 千葉県取手市職員研修「健康づくり・幸せづくり研修会」講師

2014年8月8日 千葉県白井市教育委員会教育センター

「夏季研修講座」講師

2014年9月30日 千葉県柏市「健康づくり推進委員研修会」講師

2014年10月17日 神奈川県学校保健連合会養護教諭部会講演会 講師

2014年11月22日 愛知県東郷町「健康なまちづくり包括協定 記念講演会」講師

【公開講座】

2014年11月1日 順天堂大学公開講座「学生と地域住民との交流会」コーディネーター